



＼地域の皆さんの活動をご紹介します／

● 活動事例集 ●

(住民自治組織・地域コミュニティ協議会・行政等)



龍ヶ崎市

◆はじめに

この事例集は、市内の住民自治組織（区・自治会・町内会等）や地域コミュニティ協議会等のコミュニティ活動を紹介しています。

コミュニティ活動は取組内容が幅広いこともあり、これまでも「他の地区ではどのような活動をしているのか知りたい、参考にしたい」といった声がありました。

この度、関係各位のご意見をいただきながら本事例集を作成することとし、市内各組織の皆様のご協力により発行することができました。本事例集が皆様の参考となれば幸いです。

最後になりましたが、市内のコミュニティ活動の一層の発展を祈念するとともに、日頃からの皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

龍ヶ崎市市民生活部コミュニティ推進課

※事例内容については、各組織から提出していただいた内容を原案のまま掲載しております。

※住民自治組織の問合せ先については、代表者の変更等があるため、コミュニティ推進課（0297-64-1111）となっております。

目 次

①住民同士の交流に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

事例① 龍ヶ崎ニュータウン夏祭り【松葉小学校区協議会】	1
事例② 八原夏祭り樽神輿製作事業【八原まちづくり協議会】	2
事例③ わくわくサマーフェスティバル【久保台小学校区わくわく協議会】	4
事例④ しろのさと秋祭り【城ノ内コミュニティ協議会】	5
事例⑤ センターまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	6
事例⑥ RYUとぴあ音頭パレード【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	7
事例⑦ ウォークラリー大会【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	8

<住民自治組織>

事例⑧ 日帰りバス旅行【長山前自治会】	9
事例⑨ 親子三世代交流餅つき大会【高砂区町会】	10
事例⑩ 幸谷親睦会【小通幸谷2区自治会】	11
事例⑪ 地域除草・防災訓練・防犯パトロール活動【中佐貫自治会】	12
事例⑫ お花見会【浅間ヶ浦自治会】	13

②子どもに関する活動

<地域コミュニティ協議会>

事例① 大人と遊ぼうデー【城ノ内コミュニティ協議会】	14
事例② 大宮大運動会【大宮ふるさと協議会】	15
事例③ サマーキャンプ【川原代ふれあい協議会】	16
事例④ 西コミ☆子どもまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	17
事例⑤ ふれあい学習【馴馬台地域ひなっこ協議会】	18
事例⑥ まちなかハロウィン【馴馬台地域ひなっこ協議会】	19
事例⑦ 地域交流「昔遊び」【馴柴まちづくり協議会】	20
事例⑧ 登下校の見守り活動【各地域コミュニティ協議会】	21

<住民自治組織>

事例⑨ 子宝育成支援補助金制度【高砂区町会】	22
------------------------	----

③高齢者に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

事例① グラウンド・ゴルフ大会【長戸コミュニティ協議会】	23
事例② 敬老お楽しみ会【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	24
事例③ 研修バス旅行【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】	25

<住民自治組織>

事例④ カフェ「四季の丘」【久保台四季の丘自治会】	26
事例⑤ 楽しい人生をおくるための講演会【長山1丁目自治会】	27

④防災に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

- 事例① 安否確認表示訓練(無事です旗)【八原まちづくり協議会】・・・28
- 事例② マイ・タイムラインで洪水から身を守ろう【大宮ふるさと協議会】・・・29
- 事例③ 災害時避難行動要支援者安否確認訓練【北文間コミュニティ協議会】・・・30
- 事例④ 防災倉庫の機材動作確認訓練【北文間コミュニティ協議会】・・・31
- 事例⑤ 防災の手引き【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・32
- 事例⑥ 防災マップの作成【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・33
- 事例⑦ 西小、西地区合同防災訓練【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・34

<地域コミュニティ協議会・住民自治組織>

- 事例⑧ 災害時無線交信システムの導入・交信訓練の実施
【馴柴まちづくり協議会・馴柴地区自主防災会】・・・35

<行政>

- 事例⑨ ハザードマップウォーキング(「防災」×「健康」)【市危機管理課】・・・37
協力：川原代ふれあい協議会・北文間コミュニティ協議会・龍ヶ崎地域コミュニティ協議会
- 事例⑩ 感染症を意識した避難所開設訓練【市危機管理課】・・・39
協力：松葉小学校区協議会

<住民自治組織>

- 事例⑪ タウンハウス防災訓練【小柴4丁目タウンハウス自治会】・・・40
- 事例⑫ 真に役立つ体制作り【松ヶ丘1区自主防災会】・・・41
- 事例⑬ 高砂区町会自主防災訓練【高砂区町会】・・・42
- 事例⑭ 消火器等の点検【新町南区町内会】・・・43
- 事例⑮ 自主防災組織の取組【馴馬町上米区】・・・44
- 事例⑯ 自主防災組織の取組【水門2区】・・・45
- 事例⑰ 防災訓練及び懇親会【久保台自治会】・・・46
- 事例⑱ 防災イベント～大地震発生による被害に備えよう【平台2丁目自治会】・・・47
- 事例⑲ 自主防災訓練【花丸区】・・・49
- 事例⑳ 安否確認訓練【須藤堀町本田区】・・・50
- 事例㉑ 大規模災害時の自衛消火【南が丘自治会】・・・51

⑤防犯に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

- 事例① 青色防犯パトロール【馴柴まちづくり協議会】・・・52
- 事例② 防犯パトロール【龍ヶ崎地域コミュニティ協議会】・・・54

<住民自治組織>

- 事例③ 防犯・防災見守り隊【高砂区町会】・・・55
- 事例④ 夜間防犯パトロール【佐貫西口町会】・・・56
- 事例⑤ 空き巣等の防犯活動【南が丘自治会】・・・57

⑥環境美化に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

- 事例① 花づくりコンクール【馴柴まちづくり協議会】・・・・・・・・・・ 58
事例② 蛇沼公園再生プロジェクト【長山地域コミュニティ協議会】・・・・・・・・ 59
事例③ 花いっぱい運動【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・・・・・・・・ 60

<住民自治組織>

- 事例④ 地域内清掃活動【白羽1区自治会・白羽長寿会（白羽SSクラブ）】・・・・・・・・ 61
事例⑤ 公園清掃活動【新町南区町内会】・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
事例⑥ 除草作業【半田町区】・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
事例⑦ 廃品回収事業【高砂区町会】・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
事例⑧ 高砂区町会きれいに支隊【高砂区町会】・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

⑦地域の伝統・文化に関する活動

<地域コミュニティ協議会>

- 事例① 鳥追い・ならせ餅【川原代ふれあい協議会】・・・・・・・・・・ 66

<住民自治組織>

- 事例② 盆綱【千秋区】・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

⑧地域課題の解決に向けた勉強会・意見交換会

<住民自治組織>

- 事例① 地区防災検討会【松葉小学校区協議会】・・・・・・・・・・ 68

<行政>

- 事例② 活動事例研修会【市コミュニティ推進課】・・・・・・・・・・ 69
事例③ 住民自治組織連絡協議会による講演会
【住民自治組織連絡協議会(事務局：市コミュニティ推進課)】・・・・・・・・ 70
事例④ 市長との意見交換会【市秘書課】・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

⑨その他

<地域コミュニティ協議会>

- 事例① 高齢者いきがいプロジェクト【長山地域コミュニティ協議会】・・・・・・・・ 72
事例② 城ノ内お助け隊【城ノ内コミュニティ協議会】・・・・・・・・・・ 74
事例③ あおぞらサロンの活動(クリスマスお楽しみ会)【北文間コミュニティ協議会】・・・・ 75
事例④ 季節の花の寄せ植え講座【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・・・・・・ 76
事例⑤ 生バンドで歌おう講座【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】・・・・・・・・ 77
事例⑥ 春の音楽祭【久保台小学校区わくわく協議会】・・・・・・・・・・ 78

●活動実施に向けての参考情報

<地域コミュニティ協議会>

- ①地区防災計画

<住民自治組織>

- ②区・自治会・町内会等 活動の手引き（令和3年度版）
③住民自治組織（区・自治会・町内会等）に関するアンケート調査報告書

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 龍ヶ崎ニュータウン夏祭り【松葉小学校区協議会】

★活動内容

ニュータウン入居初年度（1981 年度）以来、住民の親睦を目的に自治会・団体のご協力と事業者の皆様からの協賛金を得て、子ども神輿、盆踊り、抽選会や模擬店など、地域住民参加型の祭りを開催しています。

★活動スケジュール・プロセス

①実施日時 令和元年 7 月 27 日(日)
午後 4 時 30 分～午後 8 時 30 分

②実施会場 松葉小学校

③来場者 約 1,300 人

④実施内容

a)当日スケジュール

午後 4 時 30 分 開会宣言

午後 4 時 40 分 子ども神輿

午後 5 時 イベント

- ・よさこい踊り
- ・相撲甚句
- ・フラダンス
- ・西馬音内盆踊り
- ・盆踊り
- ・鼓舞太鼓

午後 8 時 お楽しみ抽選会

午後 8 時 30 分 閉会宣言

b)地区で活動する団体・サークルによる模擬店（10 店舗）

★活動の成果・課題

毎年続けてきた事業であり、子どもたちも含め多くの住民の交流の機会となったこと、地域の住民・団体・事業者の協力関係づくりの機会となったことなどで、大きな成果があったと自負しています。

★苦労した点・工夫した点

模擬店は、当初から外部に頼らず地区の住民・サークルが運営するとしたこと。

会場設営にあたる役員・住民・団体の負担を考慮し、リース会社を利用することへ変更したことなどがあげられます。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 八原夏祭り樽神輿製作事業【八原まちづくり協議会】

★活動内容

毎夏 8 月初めの恒例行事としてのたつのこステージで行われる「八原夏祭り」事業は、協議会の行事の中でもメインに位置づけされる大事業であり、年々地域の夏の風物詩として認知される行事になってきている。そのお祭りの主役である「神輿」は、商店街にある下町から借りていたが、八原独自の神輿を持ちたいという熱い想いと、参加した子どもたちに大人になっても心に残る「お祭り」にしたいという想いを込め、協議会メンバーで樽を使った「こども神輿」製作にとりかかることになった。設計図から起こして約 3 カ月、主力メンバー約 10 人で、完成までこぎつけた。その間、一口 500 円のご浄財（寄付金・協賛金）を募り、製作費に充てた。寄付してくれた方の名前を目札に記載し神輿に取り付けた。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 30 年 4 月下旬、神輿製作集団結成
- ②5 月広報紙「やはら 18 号」紙面にて「樽神輿製作発表」を行い、協賛金を募る。
- ③5 月製作開始～7 月完成、7 月 16 日八原小学校に展示。その後、コミセンにて展示。
- ④お祭り当日、たつのこステージにてお披露目⇒出発ステージ回り・龍ヶ岡公園内を練り歩く。その様子を「やはら 19 号」にて報告。お祭り終了後は倉庫にて保存。
- ⑤令和元年 7 月、八原オリジナルの法被を製作。
- ⑥令和元年 8 月、八原小学校に夏祭りの号外を配布し、紙面に神輿の担ぎ手募集の記事掲載。

★活動の成果・課題

製作過程では、子ども心に戻った大人たちが、毎週時間を割いて真剣に取り組み、完成をめざした。その間の連帯感や親睦感、出来上がった時の達成感を共有し絆が強まったと思う。また、お祭りの会場では視覚的にその存在感を来場者に訴え、盛り上がりのきっかけになった。

神輿担ぎの体験のない子どもたちに法被を着てもらい、公園内を練り歩いた事で、お祭りのメインイベントになり、担ぐ子どもたちの高揚した笑顔を見て、見守る大人にも笑顔がこぼれた。参加型の行事にその場にいた人達の一体感が生まれた。

これからもお祭りの「顔」として地域の人に認知され、愛される「樽神輿」になる為に、活動を続けていきたい。

★苦勞した点・工夫した点

<樽の入手>

市内の大きな酒屋 3～4 軒に問合せしたが無く、結婚式場 3 軒目で入手。

<設計図>

どのような神輿にしたいか、樽神輿の画像収集をしてデザインを決めた。樽神輿には珍しい屋根の取り付けと台座作り、設計者に恵まれ順調に進んだ。

<大工仕事>

屋根の上の鳳凰製作には苦勞したが、溶接が行える会員がいた事も恵まれた。また、作業場と保管場所を提供してくれる会員がいた事も成功した要因になった。完成品には、提灯と電飾を施した。

<協賛金集め>

地域の皆様の協力で、赤字にならずに完成させることができた。



問合せ先：八原コミュニティセンター（八原まちづくり協議会事務局）TEL：0297-64-8246

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ わくわくサマーフェスティバル【久保台小学校区わくわく協議会】

★活動内容

久保台小学校区に居住する地域住民のコミュニケーションの場として、子どもからお年寄りまで記憶に残る祭りにし、安全安心で明るく住みよい街づくりを推進するために行う。

★活動スケジュール・プロセス

- ①3月の役員会で次期わくわくサマーフェスティバルの開催日を決定。
- ②5月総会でわくわくサマーフェスティバルの案件承認。
- ③6月の臨時役員会で企画書を元に実行委員会設立。
- ④6月下旬実行委員会で企画書の詳細を検討。また、祭りに使用する材料を手配。
- ⑤7月下旬に委員(役員、各委員会メンバー)を招集し、役割分担を決める。
- ⑥8月、当日朝から準備開始。午前中で準備はほぼ完了。
- ⑦午後4時から「わくわくサマーフェスティバル」開始。



★活動の成果・課題

- ・今まで祭りはコミセンで実施していた。前年は学校とコミセンの2会場にしたため、人の流れが分散してしまった。今回は小学校校庭で一堂に会する事ができた。
- ・地区の方、また、地区から出ていった子どもたちも参加し、一体感が出た。
- ・協議会や自治会、小学校のPTAの人たちが協力して祭りを盛り上げていただいた。
- ・実施した日が8月3日で、その日の最高気温が35度を超過しており、スタッフが熱中症になりかけた為、時期の検討が必要になった。
- ・夕方4時でも夏は日差しが強いので、テントの数をもっと多く必要だった。

★苦勞した点・工夫した点

- ①夜7時半に校庭で花火を上げるため、音と煙の流れを想定し、近くのお宅に事前に案内を配った。
- ②小学校の校庭を借りる場合は電源が一カ所しかなかった。小学校の電源を借りるため、教頭先生に出動していただいた。
- ③祭りには高齢者も参加しているので、気分が悪くなった人がいる場合を想定し、1教室借りた。



問合せ先：久保台コミュニティセンター（久保台小学校区わくわく協議会事務局）TEL：0297-65-4788

①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例④ しろのさと秋祭り【城ノ内コミュニティ協議会】

★活動内容

城ノ内コミュニティ協議会では、地域住民の交流を図ることを目的として、多くの方に参加して頂けるように「しろのさと秋祭り」を実施しています。輪投げ、玉入れ、パン食い競争などの競技に参加することによって親睦を深めるものです。

★活動スケジュール・プロセス

- ①7 月中旬 第 1 回しろのさと委員会にて開催を決定。内容・スケジュールの検討。
- ②8 月下旬 第 2 回しろのさと委員会にて内容・スケジュールの決定。
- ③9 月中旬 協議会全体会議開催。各担当を決め、準備開始。広報紙で開催を周知。
- ④10 月上旬 各担当ごとに最終確認。
- ⑤前日準備、会場への搬入

★活動の成果・課題

<成果>

- ・協議会をはじめ、各地域から幅広い世代の方に参加して頂くことができて、親睦を深めることができた。

<課題>

- ・競技内容がワンパターン化してきているので、見直してみてもいいという意見もあった。
- ・活動の担い手不足。若い世代など、これまで関わりが少なかった人に対して、参加をどう促していくか。

★苦労した点・工夫した点

- ・全体会議が1回しかないなので、競技内容も含め共有するのは難しい。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ センターまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西コミュニティセンターを利用しているサークルの年に一度の発表会。手芸・絵手紙などの展示作品や、エアロビ、コーラスなどの発表を2日間行う。

また、近隣の幼稚園、保育園の幼児作品や龍ヶ崎西小児童の作品も掲示する。コミュニティセンター駐車場では、模擬店(焼き鳥・とん汁など)を出し、大盛況となる。来場者をはじめ、前日準備・当日・後片付けの動員数は延べ700人を超える。

★活動スケジュール・プロセス

- ①出展者・出演者の募集。(3カ月前)
- ②各委員会の委員長を通しイベント協力の依頼。(3カ月前)
- ③センターまつり開催の情報を市広報紙「りゅうほー」に掲載。(2カ月前)
- ④社会福祉協議会・市民活動センターへ備品借用依頼。(2カ月前)
- ⑤賄い、模擬店で使用する食材の手配。(2カ月前)
- ⑥出展者・出演者の代表への説明会。(1カ月前)
- ⑦協議会メンバーの役割周知。(1カ月前)
- ⑧前日、パネル設置、会場設営等の準備。
- ⑨当日、プログラムに沿って発表の部の進行、模擬店担当や駐車場整備などを担当。
- ⑩翌日、借用品の返却など後片付け作業。

★活動の成果・課題

- ①地域の年中行事になっている。
- ②幅広い年齢層の方に楽しんでもらうことができる。
- ③メンバーの高齢化が進み、消滅してしまうサークルも出始めており、コミュニティセンターの利用者やサークルをどう増やしていくかが課題。

★苦労した点・工夫した点

毎回作品展示サークルが12～14団体、演技発表サークルが12～15団体あり、作品展示会場の割り振り及び演技発表サークルの時間割の調整が大変。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ RYUとぴあ音頭パレード【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西コミュニティセンターで活動しているダンスサークルメンバーを中心にチームを組み、商店街通りで行われる「RYUとぴあ音頭パレード」に参加する。

★活動スケジュール・プロセス

- ①ダンスサークルメンバーとダンス指導者に参加依頼をする。（3カ月前）
- ②各委員会の協力依頼をする。（3カ月前）
- ③広報紙で参加者を募る。（2カ月前）
- ④賄いメニューの決定。（2カ月前）
- ⑤衣装作成。（2カ月前）
- ⑥振付検討と練習。（2カ月間）
- ⑦当日、協議会協力者は、賄い班と警備班に分かれる。



★活動の成果・課題

- ①事前に十分練習をし、その成果としてほぼ毎年入賞することができている。
- ②参加者の増員が課題。

★苦勞した点・工夫した点

- ①衣装を手作りし、連帯感を持つことができた。
- ②協議会メンバーが踊りの行列に付き添いながらリヤカーで飲料水を運び、踊り子たちの脱水症状を防ぐことができた。



①住民同士の交流に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑦ ウォークラリー大会【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区を中心に設定された徒歩コースを、コマ図を頼りに歩き、途中チェックポイントでゲームや設問に挑戦して完歩し、得点を競う大会。

老若男女を問わず、それぞれチームを組んで誰でも参加できるイベント。

★活動スケジュール・プロセス

- ①事前準備マニュアル、当日運営マニュアル作成。（6 カ月～3 カ月前）
- ②コースを設定する。（大会 3 カ月前まで）
- ③設定されたコースを基に通過ポイントのコマ図一覧を作成する。（2 カ月前まで）
- ④各戸配布の広報紙にて参加チームを募集する。（2 カ月前）
- ⑤参加チームの受付。（1 カ月～3 週間前）
- ⑥大会主催側に必要な役割の整理と担当者への割り振り。（2 カ月前まで）
- ⑦賞品類の選定、購入。（1 カ月前まで）
- ⑧警察へ道路使用許可願いの提出。（2 週間前）
- ⑨参加チームの携帯品準備（画板、筆記用具、コマ図一覧 etc.）。（1 週間前まで）
- ⑩前日は会場設営、模擬店準備。
- ⑪当日は開会式、ウォークラリー、表彰式、閉会式を行う。
- ⑫例年、年明け 1 月中旬に開催している。

★活動の成果・課題

- ①例年約 200 人程度の参加があり、地域の娯楽行事として定着している。
- ②模擬店なども出され、盛況を博している。
- ③開催時期が真冬なので、もう少し暖かい時期への変更を検討したい。

★苦労した点・工夫した点

- ①交通安全を確保するため、コースの要所ごとに立哨要員を配置。
- ②運営協力要員を確保するため、地元子ども会や小学校職員にも協力を呼び掛けた。
- ③より多くの子どもたちの参加を促す為、龍ヶ崎西小児童全員に案内のチラシを配布した。



問合せ先：龍ヶ崎西コミュニティセンター（龍ヶ崎西コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-0624

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑧ 日帰りバス旅行【長山前自治会】

★活動内容

日帰りバス旅行で豪華客船での東京湾クルージングと船の科学館見学を計画。

★活動スケジュール・プロセス

- ①4月自治会の総会で今年のバス旅行計画を企画。毎年バス旅行は実施しているが、若い人の参加を増やすため、目的地の調査開始。
- ②7月東京湾クルージングを実施することを自治会役員で決定。事前調査を実施。自治会長がコースを乗船し、内容を確認、資料作成および現地案内の参考とした。
- ③9月協議会にバス旅行の計画書をコミュニティ協議会へ提出し、応援金の申請を行う。
- ④10月に実施。

★活動の成果・課題

- ①いままでは年配者の参加者が多いバス旅行であったが、平成生まれの人も複数人が参加し、若返りの姿が見えた。
- ②船上での美味しいバイキング料理と歌謡ショーにより楽しい一時を過ごすことができた。
- ③船の科学館が見学予定だったが、当日工事のため、閉館していたことから、代わりにフジテレビ局内を見学に変更した。事前調査を出発前でも再度行う必要があった。

★苦勞した点・工夫した点

- ①過去に当自治会のシルバー会でバス旅行を実施してきたが、役員が高齢になり維持できなくなり、平成30年から自治会で活動を継続することとした。この為なるべく若い人に参加してもらうべく、内容を検討した。
- ②参加費用を少なくするため、地域コミュニティ協議会の応援金を活用し、活動費に充当した。

◎募集案内



◎船内での昼食会



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑨ 親子三世代交流餅つき大会【高砂区町会】

★活動内容

町会内の親睦を図りコミュニケーションを深めるために、親子三世代餅つき大会を実施。

★活動スケジュール・プロセス

- ・毎年12月上旬に高砂公民館前の駐車場で実施。
- ・餅つき臼と大人用杵および子ども用杵を用意。このほか焼きそば鉄板等を用意。
- ・社会福祉協議会に行きポップコーン機と、わた菓子機を借用。
- ・11月中旬には全戸配布のお知らせ（回覧板）で周知，参加者は10日前には班長に人数を報告。
- ・駐車場にテントを張り，段ボールを下に敷きブルーシートを敷き座布団を用意。

★活動の成果・課題

- ・長寿会の皆さんと小学生および幼稚園児やその親御さん達が親睦を図れて好評。終了後は「来年も楽しみにしているから」と感謝される。
- ・幼稚園児と親御さんが一緒に和気あいあいと初めて餅つきをして感謝された。
- ・独居老人と新興住宅地の人達の参加が少なく周知伝達方法が今後の課題。
- ・参加した多くの人達は満足し，子どもたちの笑顔も見られ，役員も満足感を味わうことができた。

★苦勞した点・工夫した点

- ・社会福祉協議会に行きポップコーン機と，わた菓子機を借用の場合は3カ月前からの受付開始なので早目に準備が必要。
- ・焼きそば用鉄板の清掃や餅米の事前準備が大変なので町会役員に苦勞をかけた。事

前に把握した以上に参加者が多く，飲食品が行き渡るか心配した。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑩ 幸谷親睦会【小通幸谷2区自治会】

★活動内容

- ・小通幸谷2区自治会（幸谷自治会）の住民交流を目的に幸谷親睦会を幸谷会館にて開催。

〔親睦会の内容〕

輪投げ大会，お楽しみ大抽選会，飲食（焼きそば，フランクフルト，焼き芋，ポップコーン等）を実施。また，費用のほとんどは馴染まちづくり協議会の応援金を活用。

★活動スケジュール・プロセス

- ・令和元年度の年間事業計画に基づいて8月18日の拡大役員（役員・班長）会議で9月22日の幸谷親睦会開催について具体的な内容について話し合いを実施。
募集方法，予算，会場，輪投げ大会の幸谷ルール，役割分担，抽選会賞品，飲食，雨天等・参加者募集は回覧やポスターまた，訪問により参加者を募る。
- ・開催1週間前に参加予定者リストを基に事前に役割分担表（主に拡大役員が実行委員）を作成配布し協力を依頼。
- ・9月22日開催当日は，午前7時30分実行委員集合し会場設営。午前8時食材の仕込み準備。午前8時30分受付開始。午前8時45分開会式。午前9時輪投げ大会開始。午前10時食材仕込み。午前11時食材配布。午前11時10分抽選会。午前11時45分表彰式。午前11時55分閉会式。午前12時会場後片付け。午前8時に実行委員2名で拡声器を持って「本日，親睦会開催」する旨，町内を巡回。



★活動の成果・課題

- ・当自治会は約110世帯である。普段，隣近所の交流や特に離れた住人との交流が少ない中，当親睦会を通じて話もしない人同士の交流ができた。
- ・実行委員以外の参加者で当日，自主的に手伝ってくれる人が増えた。
- ・年々高齢化が進みまた，子どもの減少等もあり参加者が減少。（親睦会開始当初は約80人，現在，約50人前後）

★苦勞した点・工夫した点

- ・輪投げ大会のゲーム数，距離，得点等を独自に幸谷ルール決めた。
- ・参加者集め。
- ・輪投げ大会の応援のみの参加可としたことで高齢者や幼児の親の参加が増。
- ・輪投げの各賞は，全幼児に賞品，小学生は優勝～5位，残念賞品，大人は優勝～7位。
- ・抽選会では約半数の人に何らかの賞が当たるようにした。また，参加賞を用意。
- ・ほとんどの参加者に何らかの役割を持ってもらって全員参加型にした。
- ・輪投げの練習日を親睦会の前日に2時間程度実施。

◎幼児の部



◎小学生の部



◎抽選会



◎大人の部



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑪ 地域除草・防災訓練・防犯パトロール活動【中佐貫自治会】

★活動内容

（地域のすべての活動は住民のコミュニケーションを図る目的で実施）

- ①地域美化活動として梅香園や沖田堀周辺の除草作業を年4～5回実施。
- ②地域住民のコミュニケーションを重視した豚汁大会兼防災訓練の実施。仮設テント、仮設トイレの張り方、発電機による自家用水中ポンプの稼働訓練及豚汁や非常食を住民共同で作製、試食しながら交流を図る。（令和3年度は中止）
- ③地域住民が輪番制でリサイクル資源回収整理と自治会内防犯パトロールを実施。防犯パトロールは子どもの参加も歓迎し、月2回実施。

★活動スケジュール・プロセス

事業スケジュールは総会にて年間の予定を決定し活動時期は、その都度回覧版にて参加を募っており自由参加にしている。

リサイクル資源の回収整理と防犯パトロールは月2回の輪番制で地域住民が参加をできるように年度初めに決定し全員に通知している。

★活動の成果・課題

（令和2、3年度はコロナ禍の中、予定の活動が不可の事業があった）

- ①梅香園や沖田堀周辺の除草作業を実施し子どもたちの遊び場の確保ができた。
除草作業に中高生の参加を呼び掛けたが令和3年度はいなかった。
- ②防災訓練は仮設テントや仮設トイレの建て方の訓練や発電機による自家用水の確保ができた。豚汁大会では非常食の作り方、自治会所有の防災備品の展示を行い防災意識の高揚と住民の交流の場として機能

している。毎年70～80名参加しているが、単身者やアパート住民の参加促進がこれからの課題である。

- ③住民のリサイクル資源の整理は資源の回収の意識を高める事ができた。また、防犯パトロールは住民同士でエリア内の状況が確認できることがメリットである。

★苦労した点・工夫した点

- ①除草作業は住民の交流の場でもあり中高生は防災の担い手でもあるので交流が大切と考え、ワンコインを支給することを考えたが参加者はいなかった。
- ②防災訓練も交流の場として豚汁大会を実施。一緒に豚汁や非常食を食し、御近所の様子を話し合った。
- ③防犯パトロールは輪番制であるが、子どもの参加も歓迎。

◎豚汁大会（令和元年度）



◎防犯パトロール（令和3年度）



◎梅香園除草作業（令和3年度）



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

①住民同士の交流に関する活動（住民自治組織）

事例⑫ お花見会【浅間ヶ浦自治会】

★活動内容

- 年1回、浅間ヶ浦自治会事業計画に基づき、3月下旬から4月上旬の日曜日に実施。
- お花見会を通して、新旧役員の交代に伴い、顔合わせ会を行う事で、互いの意思疎通が図られ、自治会活動に活気が戻り、行事を実施するも積極的に参加するなど、町内の風通しが良くなった。
- 各班、回覧やポスターにより、一般会員には参加募集を働きかけ、毎年多くの方が参加して自治会行事として盛大に開催されている。
- 新規加入会員に対しては、自己紹介を兼ねて紹介をしている。

★活動スケジュール・プロセス

- 事業計画に基づき、役員会議において、スケジュール・予算・役割分担等の確認を実施。
- 開催前日、役員及び会員の協力を得て会場の設営作業（テーブル・カラオケ・食器等）。
- 当日、出欠等の受付から始まり、女性部が準備した飲食物等がテーブル上に並べられて準備が完了、司会進行に基づき、会長挨拶・新規会員紹介等・お花見会祝宴開始。
- 出し物としては、主にカラオケ・ビンゴゲーム（出席者全員参加）など。

★活動の成果・課題

- 近年、隣近所の付き合いの少ない中、地域に密着したイベント行事を実施することにより、年代にとらわれず、誰もが参加しやすい環境作りをすれば、人は必ず集まってくるのではないかと。お花見会を楽しみにしている方も多く、参加者同士の絆も深まり自治会全体が明るく元気になり活性化が図られる。
- 飲食することにより、普段お話をしない人も、親密感を覚えることから、気楽に話せるなど、周りの状況が良く見えてくる。

★苦労した点・工夫した点

- 年々高齢化が進み、事前準備作業等は前日に高齢者がメインとなり準備するのが通例である（会場レイアウト・テーブル・椅子・座布団・飲食物・カラオケセット等）。工夫としては、任務分担を明確にし、各任務毎に事前会議を開き、予定を立てるなど、特に食べ物等の献立は手料理でなく、弁当やおつまみセットなど、手のかからない物を選定する事で、かなりの労力軽減が図られた。



◎会場



◎抽選会



◎2次会

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 大人と遊ぼうデー【城ノ内コミュニティ協議会】

★活動内容

城ノ内コミュニティ協議会では、毎年8月上旬に「大人と遊ぼうデー」を実施しています。大人と子どもが、オセロや将棋、手芸やゲームなどを一緒に楽しみ、野外では、流しそうめんや綿あめ、かき氷などで大変にぎわいます。

★活動スケジュール・プロセス

①5月中旬 第1回

こども委員会にて内容・スケジュールの検討。

②6月上旬 第2回

こども委員会にて内容・スケジュール・各担当を決定。

③7月上旬 第3回

こども委員会にて各担当で打合せ、準備リスト作成。

④7月下旬

各担当準備完了。



★活動の成果・課題

・成果

大人から子どもまで幅広い世代の方に参加して頂くことができて、大いに親睦を深めることができた。

・課題

若い男性の参加者（ボランティアも含め）が少なかった。これからどう促していくか。

★苦勞した点・工夫した点

・野外担当の方が、暑くて大変だった。大型扇風機の手配が必要です。

・流しそうめんは、人数の制限をした方がよかった。



問合せ先：城ノ内コミュニティセンター（城ノ内コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-62-3222

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 大宮大運動会【大宮ふるさと協議会】

★活動内容

大宮小学校の児童と地域住民の合同の運動会（大宮大運動会）です。

参加者は、約 500 人で校庭のトラックの外周に各地区のテント（15 張）が張られ壮観です。大宮地区では、昭和 63 年（1988 年）から地域住民の地区運動会を開催してきました。平成 17 年に少子化に伴う大宮小学校の児童減少により、初めて地区住民との合同運動会を企画開催しました。それ以来毎年続いてまいりましたがコロナの影響で昨年今年と 2 年続けて中止となっています。

★活動スケジュール・プロセス

- ①7 月 4 日に運動会実行委員会（25 人）を開催し、今後の日程等の協議。
- ②8 月 20 日・9 月 5 日・9 月 15 日に実行委員会（60 人）開催、9 月 20 日に前日準備。
- ③開催当日 8 時 25 分の開会式では、市長・県議会議員・地元の市議のあいさつがあり、各区長も来賓として出席いただいております。競技は、学校関係で 20 競技、地区関係で 8 競技を実施しました。競技中、児童は紅白に分けて、地域の方々は東西南北の 4 ブロックに分けてそれぞれ勝敗を競いました。
- ④午後 2 時 20 分からの閉会式では、成績発表・校長先生の講評がありました。



★活動の成果・課題

- ①開催当日は、雨の予報で開催も危ぶまれたが 2 種類用意した中の晴天用のプログラムを使用し時間通り進行し、けが人もなく無事終了しました。
- ②昼休み時間には、恒例の大抽選会を実施し盛り上がりを見せていました。
- ③日頃、なかなか顔を合わせない地域の方々が団体競技等に参加して和気あいあいと楽しんでいました。（特に綱引き・紅白玉入れ）
- ④あらかじめ雨天用のプログラムが用意されており良かった。
- ⑤ボランティアの中学生が運営を手伝ってくれ、非常に助かった。
- ⑥来場者の駐車場の確保が難しい。（路上駐車が数台あった）。

★苦労した点・工夫した点

- ①開催日が午後雨天の予報だったので 2 つのプログラム（晴天・雨天）を作成し対処しました。（当日は、降雨が無かったため晴天用を使用 ※雨天用は、午後 1 時頃終了予定）
- ②暑さ・熱中症対策として水分補給タイムを設けました。
- ③毎年のことですが地区対抗のリレーの選手（住民）がなかなか集まらない。



問合せ先：大宮コミュニティセンター（大宮ふるさと協議会事務局）TEL：0297-64-8149

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ サマーキャンプ【川原代ふれあい協議会】

★活動内容

夏休みに、学校ではなかなか学べないような遊びやボランティア、地域行事の体験を通して、子どもたちの自主性や道徳心、連帯感を育成していく活動。

★活動スケジュール・プロセス

協議会構成団体である川原代ブラザーズが中心となり夏休みに1泊2日のキャンプを行う。7月にキャンプで行う内容を打ち合わせし、キャンプ前日までに買い出しを行う。

小学校と協議会広報紙より参加者の募集を行う。参加は小学生全学年、うち宿泊は原則4年生以上。

8月土曜日午後1時にコミセンに集合し、開所式を行う。1年生から6年生の混合班の活動グループと宿泊テントグループに分ける。

1日目は、スポーツゴミ拾い大会・飯ごう炊飯によるカレーライスづくり・テントづくり（多目的ホール）・キャンプファイヤー・花火大会・肝試し大会を行い、消灯。

2日目は6時起床、ラジオ体操・朝食ホットドッグづくり・コミセン室内外清掃・思い出のビリビリちぎり絵作成・流しそうめん・すいか割り大会・かき氷・片付け・感想発表・閉所式。子どもたちに盛りだくさんの体験をしてもらう。

★活動の成果・課題

1年生から6年生の混合班で活動を行うため、思いやり、自主性、協調性やリーダーシップを学ぶことが出来る。子どもたちはさまざまな活動に一生懸命取り組み、有意義な楽しい夏休みを過ごして思い出を作っている。

★苦勞した点・工夫した点

夏の暑い時期に活動を行うので、けがや子どもたちの体調に気を付ける。

集団生活を行うので、規律を守って行動してもらうようにする。



問合せ先：川原代コミュニティセンター（川原代ふれあい協議会事務局）TEL：0297-66-7263

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例④ 西コミ☆子どもまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

小学生，未就学児を対象にしたお祭り型レクリエーション。龍ヶ崎西小体育館を借用して会場に利用。

午前中は龍ヶ崎西小龍神太鼓，愛宕中吹奏楽部の演奏会。

午後は各種露店（射的，風船釣り，スーパーボールすくい等）を展開し，遊びの場とする。体育館外側には模擬店（カレー，豚汁，混ぜご飯，飲み物等）を出し，廉価で販売。

★活動スケジュール・プロセス

- ①企画書，事前準備マニュアル，当日運営マニュアルの作成（6カ月前）
- ②龍ヶ崎西小体育館借用と龍神太鼓出演の依頼。（5カ月前）
- ③愛宕中吹奏楽部へ出演の依頼。（5カ月前）
- ④露店用具，景品，賞品，参加賞等の品決めと購入手配。（4カ月前）
- ⑤会場設定図面作成。（3カ月前）
- ⑥大会主催側に必要な役割の整理と担当者への割り振り。（2カ月前まで）
- ⑦会場設営，模擬店準備。（前日）



★活動の成果・課題

- ①毎年 500 人を超える参加者があり，大盛況である。
- ②地域子どもたちのみならず，保護者たちの楽しみになっている。

★苦勞した点・工夫した点

内容がマンネリ化しないように，毎年出し物を少しずつ変えていくような工夫が必要。



問合せ先：龍ヶ崎西コミュニティセンター（龍ヶ崎西コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-0624

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ ふれあい学習【馴馬台地域ひなっこ協議会】

★活動内容

老若男女を問わず誰もが知っている昔話の「桃太郎」を、講師である神木氏より多方面からわかりやすくお話をしていただき、子どもたちにもわかりやすく人生論を学ぶ講座である。

★活動スケジュール・プロセス

- ①1月15日 馴馬台小学校にて、開催時間の協議を行う。
- ②1月18日 文化体育委員会にて開催までのスケジュールの確認を行う。
- ③1月21日 馴馬台小学校においてアニメートの出演調整を行う。
- ④2月15日 文化体育委員会にて備品や担当の最終打ち合わせを行う。
- ⑤2月20日 午前8時30分より、会場準備を行う。
- ⑥2月20日 午前10時開演



★活動の成果・課題

- ①桃太郎の話の発祥は岡山を含めて5カ所あり、それぞれの地がお互い協力して普及活動をしていることや、従者も、きじ、さる、いぬ以外にも諸説ある事など、大人にとっても新しい発見があった。
- ②視点を変えて物事を見ることで柔軟な発想が生まれて、人生をより楽しく生きるアイデアを貰えた。
- ③子どもたちと一緒に活動することで、世代を超えた地域住民のコミュニケーションの形成に寄与したと思う。

★苦労した点・工夫した点

- ①平日学校での開催なので、授業の調整に苦慮した。
- ②子どもから大人まで楽しめる内容を考えて今回の講師選定を行った。
- ③地域住民の参加者を増やすため参観日との調整を行ったが、カリキュラムとの関係で同日開催はかなわなかった。



問合せ先：馴馬台コミュニティセンター（馴馬台地域ひなっこ協議会事務局）TEL：0297-65-4040

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ まちなかハロウィン【馴馬台地域ひなっこ協議会】

★活動内容

参加者が仮装を楽しみ、地域散策の上、協力家庭へ訪問しお菓子をもらうハロウィンイベント。本イベントを通して地域住民の交流と街の活気を得るものである。

★活動スケジュール・プロセス

- ①10月2日 文化体育子ども委員会にて開催までのスケジュールの確認を行う。
- ②10月3日～17日 協力いただける家庭の調整を実施。趣旨を説明し、参加者が訪問する際にお菓子の配布などを実施いただける方を探した。
- ③10月5日～23日 参加者募集の広報を実施。小学校と協力し全生徒への申込書を配布（15日を締切として回収）、地域住民へは回覧にて、23日までに事務局へ参加申し込みをお願いする連絡を実施した。
- ④10月18日 当日の散策地図、各委員の役務調整、当日タイムスケジュールの確認を行う。
- ⑤10月21日 配布するお菓子、消毒機器、装飾品の準備。
- ⑥10月29日 協力家庭への最終確認、当日段取り説明。
- ⑦10月30日 午前9時協力家庭へ物品の運び込み。午後1時委員集合し段取りの最終確認の上、午後2時イベント開始。

★活動の成果・課題

- ①当日の参加者は約170人（実施者除く）あり、大変盛況に行う事が出来た。
- ②参加した子どもたちは訪問する家庭を探すことが宝探しのように楽しむことができた。また、協力してくれた家庭も多くの子どもたちと触れ合う機会となった。本イベントは地域の方と交流する機会となり、コミュニケーションの形成に寄与したと思う。
- ③想定した時間よりも早く回る参加者が多く、散策範囲の拡大など検討していく必要性を感じた。

★苦勞した点・工夫した点

- ①訪問できる家庭が多い事でより楽しめると考え、協力いただける家庭を数多く集めた。また、近隣で集まりすぎないように、散策範囲で均等に訪問できる家庭を配備できるようにした。
- ②ハロウィンイベントであるため、多くのお菓子を準備し、各協力いただける家庭に対し、参加者全員にいきわたるよう数量を準備した。
- ③事前申込制としたが、当日参加者も受け入れる体制を取り、広く参加できるイベントとして開催する方法を取った。



問合せ先：馴馬台コミュニティセンター（馴馬台地域ひなっこ協議会事務局）TEL：0297-65-4040

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑦ 地域交流「昔遊び」【馴柴まちづくり協議会】

★活動内容

- ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと馴柴小学校1年生、2年生が「昔遊び」を通じて地域交流および健全育成目的で始めました。
- ・昔遊び
1年生 折紙、羽根つき
2年生 けん玉、輪投げ

★活動スケジュール・プロセス

- ・令和元年3月18日 健康・福祉委員長ほか委員と馴柴小学校で「昔遊び」の日程調整決定。
- ・10月10日 自治会、長寿会、民生委員児童委員へ「昔遊び」協力依頼の案内配布。
- ・11月15日 委員会で「昔遊び」計画表による最終確認。
- ・11月26日（1年生）および28日（2年生）に「昔遊び」を開催。

＊開催前に関係者に役割分担、時間割等を周知し実施。



★活動の成果・課題

- ・年代を超えた交流が深められ12年目になりました。
- ・折紙・羽根つき・けん玉・輪投げについて非常に興味を持ち、家でもやってみたい人が増えました。
- ・児童たちからのお礼の手紙を読むのを毎回楽しみにしています。

★苦勞した点・工夫した点

- ・以前、竹とんぼ製作は通常、竹を加工するがその際にナイフを使用するため安全確保が難しかった。そこで、ナイフを使わない竹とんぼ製作に取り組んだ。羽根を牛乳パックで棒は焼き鳥のくし棒に変えて製作することで安全確保を図った。また、羽根の折る角度で飛ぶ確率が左右され苦勞した。
- ・今まで行ってきた以外の昔遊びも検討し、児童が体験できるようにしていきたい。



問合せ先：馴柴コミュニティセンター（馴柴まちづくり協議会事務局）TEL：0297-66-7214

②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑧ 登下校の見守り活動【各地域コミュニティ協議会】

★活動内容

小学生の安心安全な登下校のため、地域住民による見守り活動が行われています。通学路の危険な箇所（交差点など）に立ち、見守りを行ったり、通学班に付き添う形などで行う方法はいろいろです。



（写真：龍ヶ崎小学校）



（写真：大宮小学校）

②子どもに関する活動（住民自治組織）

事例⑨ 子宝育成支援補助金制度【高砂区町会】

★活動内容

町会内で第四子が誕生された場合は子宝育成補助金制度として町会より補助金3万円と記念品（アルバム）、上のお子さんにお菓子の詰め合わせとジュースを贈呈。（第四子以上を対象とするので第五子以上の誕生の場合も同様）

★活動スケジュール・プロセス

- ・少子化が進む現状を子どもたちは町会内だけではなく、市および国の宝とされるので町会内で少しでも支援して行ければと総会で子宝育成支援補助金制度を制定、町会規約として実施。
- ・住民には回覧板で周知して町会役員同席の上、公民館で区長が贈呈式を実施。

★活動の成果・課題

- ・少子化傾向の現状で、町会全体で子育てを支援。第四子誕生宅では「大変感激した」と感謝された。
- ・当町会の子宝育成支援補助金制度により町会内で子育て世代が住み良い町と感じられ永住者としなるよう援助（現在の制度はアパート・借家問わず補助金制度の対象）

★苦勞した点・工夫した点

第四子の誕生により子宝育成支援補助金制度を回覧板で周知し贈呈式を実施後に一部の町会員より『なぜ第四子からなのか？遡って第三子からでも良いのでは』ほか『子どもいない家庭もある』等の意見もありましたが多くの住民が賛同および賛辞してくれましたので、町会役員一同は子宝育成支援補助金制度について良い制度と自負しています。

③高齢者に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① グラウンド・ゴルフ大会【長戸コミュニティ協議会】

★活動内容

令和2年度長戸コミュニティ協議会の活動は、コロナ禍のため、ほとんど実施することができませんでした。11月5日のグラウンド・ゴルフ大会は、室外でのプレーですが、密を避け、マスク着用・手の消毒・検温等感染症対策を充分に実施し、予定通り開催することができました。

★活動スケジュール・プロセス

10月18日スポレク健康・福祉委員会で11月4日のグラウンド・ゴルフ大会準備、11月5日の大会について、役割分担等詳細を決める。



★活動の成果・課題

芝生の上「和気あいあい」と、そして真剣にプレーした45名の参加者たち。新たな交流と活力を得ることのできた大会でした。コロナ終息後は、もっと多くの人に参加していただき地元のつながりを更に深めたいと思います。

★苦勞した点・工夫した点

コロナ対策は充分実施したが、やはり感染等心配な点もあった。



③高齢者に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 敬老お楽しみ会【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区の 75 歳以上の方を対象とした高齢者向けイベント。大昭ホール龍ヶ崎（文化会館）で、手品や落語などの演芸や演歌歌手による歌謡ショーを披露する。手作り弁当や紅白饅頭を振る舞い、思い出に残る一日を過ごしていただく。

★活動スケジュール・プロセス

- ①文化会館及び市バスの空き状況を確認し予約。（6 カ月前）
- ②出演者を決め出演依頼。（6 カ月前）
- ③各委員会の委員長を通しイベント協力の依頼。（3 カ月前）
- ④昼食や記念品等の検討。（3 カ月前）
- ⑤社会福祉協議会から借用する物品がある場合は手配。（3 カ月前）
- ⑥参加者募集の広報紙発行。（2 カ月前）
- ⑦協議会メンバーの役割周知。（1 カ月前）
- ⑧当日、協議会メンバーは割り振られた役割に沿ってプログラムを遂行。



★活動の成果・課題

- ①招待者の多くが会の終了後、「来年も楽しみに待っているよ。」と言ってくれる。
- ②年々参加者が増えてきている。

★苦勞した点・工夫した点

市バスを借用し招待者の送迎を行って、より多くの参加者を得ることが出来た。



③高齢者に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ 研修バス旅行【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区の 65 歳以上の方々を対象に日帰りバス旅行を実施。

生涯学習の一環として位置付け、毎回行程の中に工場や博物館、美術館等の見学を組み入れている。

★活動スケジュール・プロセス

- ①見学施設、立ち寄り先の設定。(3 カ月前まで)
- ②見学施設、立ち寄り先、昼食場所、観光バスの予約。(3 カ月前まで)
- ③広報紙にて参加者募集。(2 カ月前)
- ④参加者受付。(1 カ月前)
- ⑤バス座席表、旅のしおり等作成。(1 カ月前)
- ⑥対応役割(ガイド役、先導役、見守り役等)の決定。(1 カ月前)
- ⑦受付準備。(前日)

★活動の成果・課題

- ①本イベントは毎年地域の高齢者たちの楽しみの 1 つになっている。
- ②1 日中団体行動をとるので、お互いに親睦間が増しているようだ。

★苦労した点・工夫した点

- ①高齢者の旅行なので、無理のない行程を心掛けている。
- ②近場の観光地や見学場所は一通り巡っているので、年々行き先を決めるのが一苦労。



③高齢者に関する活動（住民自治組織）

事例④ カフェ「四季の丘」【久保台四季の丘自治会】

★活動内容

お茶を飲みながら語らいの場を提供する四季の丘集会場を活用したカフェの実施。

★活動スケジュール・プロセス

- 自治会、理事会の承認をいただき、令和元年8月よりカフェ「四季の丘」の開催を開始。
- 龍ヶ崎市に「高齢者地域ふれあいサロン」として申請し、活動開始準備費（上限10万円）及び活動費（上限5万円/年）の支援を頂き活動を開始、継続中。
※不足分は自治会費より捻出
※準備費でテーブル・コーヒーマーカー等を購入。
- レギュラーコーヒー、お茶類、ジュース類及び簡単なお茶菓子を準備（全て無料で提供）。
- 開催の案内はマンション掲示板に掲示（掲示板の活用については理事会承認済）。
- 開催は月4回（木・土・日・金曜日に各1回）
- 開催時間は、午後1時～午後4時。
- 運用はマンション内有志サークルである「四季クラブ」（メンバー12人）が担当。



★活動の成果・課題

- コロナ禍での開催中止はあるものの3年間で39回開催し、のべ917人の来場者があった。
- 65歳以上の来場者ものべ642人あり、高齢者の語らいの場提供に貢献できている。
- 新たなコミュニケーションの輪も広がり、マンション内の安全・安心にも貢献している。
- マンション内の来場世帯は400世帯中87世帯で参加者が固定しているのが課題。

★苦勞した点・工夫した点

- コロナ対応（三密・消毒・検温等）については市の担当の方に来てもらって対策を検討した。
- 市の助成金は月4回以上の開催が必須な為、メンバーと協議して月4回開催することにした。
- 住民の皆さんの趣味の展示会も実施し、来場者に見てもらった（写真・ウッドバーニング等）。
- 夏場はアイスコーヒー、冬場は甘酒等、季節に合った飲み物を提供した。
- 子育て世代に来てもらうべく100円玩具も準備した。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

③高齢者に関する活動（住民自治組織）

事例⑤ 楽しい人生をおくるための講演会【長山1丁目自治会】

★活動内容

高齢化に向かう中で、健康で安全・安心な生活をおくるための講演会の開催

①誤嚥性肺炎^{ごえんせいはいえん}の予防

第1回令和2年12月・第2回 令和3年2月

②フレイルにならない生活習慣

第1回令和3年1月(中止)

第2回令和3年2月

③認知症への備えと相続対策

第1回令和2年12月・第2回令和3年1月(中止)

(注) フレイル高齢化の中の生活活力が衰えた状態

※講演会はいずれも45分間

(コロナ禍により時間を短縮しての開催)

★活動スケジュール・プロセス

例年は会員の親睦を目的として自治会活動応援金を活用したレクリエーション（バス旅行等）を企画しているが、新型コロナ禍により活動が制限される中での検討となった。長山1丁目は龍ヶ崎市でも65歳以上の高齢化率が高い位置にある事に着目した。「誤嚥性肺炎」と「フレイル」は大きく関連しており高齢者にとっては重要なテーマである。また「認知症と相続対策」は健康と生活の視点から講演会のテーマとして適していると考えた。

(開催前)

①10月の役員会で講演会の実施を決定。

②その後講演会の内容を精査し参加募集の案内を作成して会員の全戸へ配布。

③各班長が回収した後に参加者リストを作成した。

(開催後)

参加者アンケートを実施し、54人から回答が寄せられた。



★活動の成果・課題

6回の講演会を計画したが1月開催予定の2回は緊急事態宣言発令により中止した。4回の講演会に全体で60名が参加した。

(アンケート結果)

実施内容については期待以上であるという回答が90%を超えており、参加した会員のニーズに合った講演会が出来たと考えられる。参加者の意見も講演の内容に対しては肯定的な意見が多く満足のいく講演会が開催出来たと考える。参加者からは継続を希望する意見も出ていた。緊急事態宣言発令による中止があり見込んだ数字にはならなかったがやむを得なかった。

★苦勞した点・工夫した点

①新型コロナ禍で開催に否定的な意見もある中での開催であり、実施の難しさがあった。

②高齢者に興味があり健康と生活の視点から重要なテーマを考えた結果3つのテーマとした。

③感染対策としてでき得る対策全てを実施(消毒液・不織布マスク・体温測定・講師用のアクリル板、テーブルは二人掛け等々)し、参加者にもその徹底を求めた。また寒さ対策のためのカイロを準備した。

④コロナ禍でなければ本来は1時間半から2時間の開催時間、その後に親睦を深める昼食会も考えたがコロナ禍であり今後の機会に持ち越しとした。

⑤参加の方には歯科衛生士からの推薦により「くるりナブラシ」を配布した。誤嚥性肺炎防止のための口腔ケアに関する資料を調達して配布した。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 安否確認表示訓練（無事です旗）【八原まちづくり協議会】

★活動内容

大地震発生を想定し、防災に対する意識の高揚に努めるために実施。自宅前の道路から見やすい場所に「無事です」旗を表示することで、あるいは表示しないことによって自分の安否を近所に知らせる訓練である。

★活動スケジュール・プロセス

●令和2年

- ①6月 運営委員会で防災委員長から、「合同防災訓練」中止についての提案あり。運営委員会で中止を決定。
- ②7月 第3回防災委員会において、「合同防災訓練」の代替として「無事です旗・掲示訓練事業」を決定。「無事です」旗の作成へ。
- ③10月 防災委員会で「旗」を住民自治組織ごとに分ける作業を行う。
- ④福祉委員会開催の「みなづき会」(11/8, 15, 22)において、各住民自治組織の代表者に訓練実施の趣旨説明をし、理解と協力を得る。各住民自治組織の代表者に「旗」と「実施のためのフローチャート説明」を配付。
- ⑤12月 実施の周知を図るために、各住民自治組織の代表者に回覧を依頼する。



★活動の成果・課題

- ①訓練当日午前9時、防災無線により訓練開始。各住民自治組織の班長が表示の有無を確認し、表示の数を区長・自治会長へ報告。各区長・自治会長は協議会事務局（八原コミュニティセンター）へ報告。その後、防災委員会で集計。表示率は53%であった。
- ②成果として、防災に対する意識が高まった。自ら守るという安全意識が生まれ、家族や近所の安全確保へとつながる輪が広がった。
- ③課題として、今後とも地域及び各家庭において、有事の際の安全確保に関しての話し合いを持ち、この訓練を活用して欲しい。

★苦勞した点・工夫した点

- ①「無事です」旗のオリジナル版を作成し、八原小学校区の全戸に配布したこと。
- ②住民自治組織の代表者や民生委員児童委員の皆さんが出席する会議において、訓練の趣旨や実施方法を説明し、協力及び多数の参加を呼びかけたこと。



問合せ先：八原コミュニティセンター（八原まちづくり協議会事務局）TEL：0297-64-8246

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② マイ・タイムラインで洪水から身を守ろう【大宮ふるさと協議会】

★活動内容

水害想定避難訓練及びマイ・タイムラインを作成して防災意識を高める。

一般参加者は、避難場所である大宮小学校体育館に集合し、各自マイ・タイムライン作成。また、小学生も担当者指導の下、各教室において全員がマイ・タイムラインを作成し、終了後体育館に移動し合流する。

★活動スケジュール・プロセス

- ①5月19日の生活安全委員会において、今年度の合同防災訓練(マイ・タイムライン作成)の実施日(6月29日)及び資料の確認。
- ②5月29日 15区の区長に参加協力・資料配布を依頼。(各地区5人以上の参加要請)
- ③5月29日 大宮小学校校長先生・教頭先生に資料配布。
- ④6月17日 各区からの参加者名簿の確認・整理。
- ⑤6月28日 前日準備 会場設置。(テーブル・椅子の設置、展示物の搬入等)

★活動の成果・課題

- ①開催当日(6月29日)午前8時に大宮地区の防災無線により、避難行動開始。大宮小体育館で順次受付。午前9時前には参加者名簿通りの方々が集合。この間、市の対策本部に避難者人数を20分毎に報告。
- ②午前9時市危機管理課の担当者により「マイ・タイムライン講座」が始まる。講座は、大宮地区を東西南北の4ブロックに分けて行い全員が作成する。他に各ブロック共同で一つ作成してそれぞれ発表する。

③小学生及び保護者の方は、教室において「マイ・タイムライン講座」を受講しました。

④成果として、今回が2回目の「マイ・タイムライン講座」でしたが徐々に防災意識が高まったように思われます。

⑤事前に、マイ・タイムラインを作成しておく、災害時にいち早く行動ができるという利点があるので訓練に参加しない方々にもぜひ推奨して下さいとのこと。

★苦勞した点・工夫した点

- ①開催前数回にわたり市危機管理課職員との打ち合わせを実施。
- ②小学生児童への「マイ・タイムライン」の説明を学年毎に実施。(各教室において)
- ③駐車場の確保。
- ④開催前日の展示物の搬入と机イスの準備が大変でした。



問合せ先：大宮コミュニティセンター（大宮ふるさと協議会事務局）TEL：0297-64-8149

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ 災害時避難行動要支援者安否確認訓練【北文間コミュニティ協議会】

★活動内容

「震度 6」の地震が発生したと想定し、北文間地区の各自主防災組織で要支援者の把握をし、連絡体制強化を目標に訓練しました。

住民の避難については、住民一人一人が、あらかじめ、災害の種類ごとにどのように避難するかを記載・用意しておく「災害・避難カード」を備え付けておく必要がある。

★活動スケジュール・プロセス

令和元年 5 月 21 日

災害時避難行動要支援者安否確認要領の検討

7 月 14 日 北文間地区 区長会会議

8 月 担当者的会議・安否確認訓練シナリオ案作成

10 月 安否確認訓練調整会議

12 月 8 日 安否確認訓練実施

★活動の成果・課題

地区別の避難行動要支援者の数が把握できた。

災害避難カードを作成することにより、災害種類別に避難場所が把握できた。

★苦勞した点・工夫した点

北文間地区は南が丘を除き、地区の地形が低く、小貝川が決壊した時大部分が水没します。

水害の時、要支援者の数と場所の把握が重要だと再確認しました。



災害・避難カード

災害	避難所（避難場所）	注視する情報	危険な状況
小貝川洪水	県立竜ヶ崎南高等学校	押付水位観測所（避難勧告）	7. 9 m
		押付水位観測所 （避難準備・高齢者等避難開始）	7. 7 m
土砂災害	羽原集会所 北文間コミュニティセンター	避難勧告	気象庁土砂災害警戒 判定メッシュ情報 崖崩れの兆候等
		（避難準備・高齢者等避難開始）	
地震	旧北文間小学校	避難勧告	倒壊の危険性がある 場合等
		避難指示	

問合せ先：北文間コミュニティセンター（北文間コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-8249

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例④ 防災倉庫の機材動作確認訓練【北文間コミュニティ協議会】

★活動内容

台風の時期を迎え、災害時の対応ができるよう倉庫内の機材が正常に動き故障が無いが、動作確認と使い方の講習、備蓄品の整理などを行いました。去年も実施し今回で2回目の訓練になります。

★活動スケジュール・プロセス

災害はいつやってくるか分かりませんので、倉庫内の管理を徹底する為にも倉庫内の動作確認訓練は定期的の実施する必要があります。各種発電機の使いの訓練も必要です。

★活動の成果・課題

- ・3台中2台に発電機のフィルターに劣化がありました（うち1台が稼働しない為、修理依頼申し込みしました）。
- ・発電機は定期的にオイル抜きをする必要有り。
- ・太陽光ソーラーパネル付き発電機の使い方の講習を行い、晴れていた為実際にパネルで発電し正常に稼働確認しました。
- ・ガスボンベ付き発電機の使い方の講習を行い、使い方を学びました。
- ・倉庫内の備蓄品を日付の新しい物は奥に、古い物は前に整理しました。

★苦労した点・工夫した点

- ・発電機が重いので移動が大変でした。
- ・倉庫内の備蓄品を納める棚があったら収納がしやすい。



問合せ先：北文間コミュニティセンター（北文間コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-8249

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ 防災の手引き【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

いつ起きるか予測がつかない大震災に備え、日頃の準備や災害時の行動を分かりやすくまとめた冊子の作成。龍ヶ崎西地区内の各戸に配布し、防災の意識を高めてもらう。

★活動スケジュール・プロセス

- ①冊子内容の検討。
- ②龍ヶ崎西地区避難場所の確認。
- ③読みやすく、分かりやすいレイアウトの考案。
- ④市危機管理課の担当者に内容の確認をしてもらう。
- ⑤冊子印刷。
- ⑥龍ヶ崎西地区自主防災組織の代表者に手引きの説明。
- ⑦龍ヶ崎西地区内各戸配布。（約 2, 600 戸）

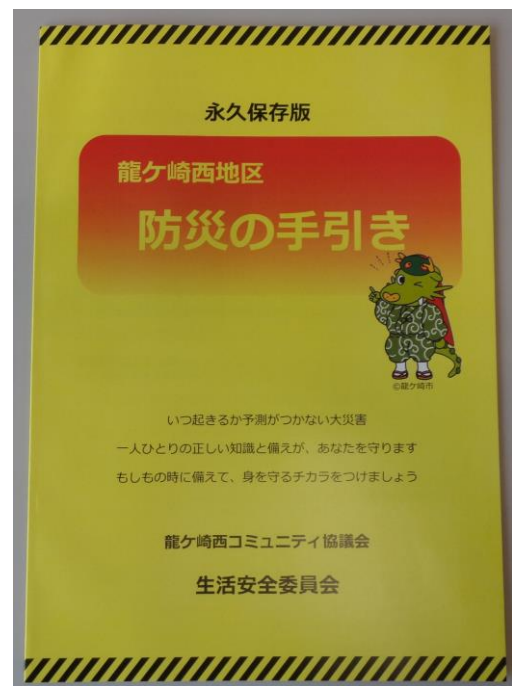


★活動の成果・課題

- ①西地区の自主防災組織の活動に活用することができる
- ②各家庭において、災害に備えての諸備品の整備や、いざという時の避難場所が分かりやすく理解できる。

★苦労した点・工夫した点

「まいりゅう」の使用や、イラストを多くすることにより、誰もが馴染みやすい内容にした。



④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ 防災マップの作成【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区（米町東区・米町南区・米町西区・水門1区・水門2区・馴馬町上米区・新町本町区・新町南区町内会・高砂区町会・直舢区）の消火器や消火栓の位置を確認し、マップに起こす。完成した防災マップを各区長に配布し、地区の皆さんが見やすい場所に掲示してもらうことにより、防災の意識を高めることができる。

★活動スケジュール・プロセス

- ①生活安全委員会メンバー3人1組で各区を回り、現地調査を実施。
- ②消火器や消火栓の位置を確認し、マップに書き込む。
- ③印刷。
- ④龍ヶ崎西地区内の各区長にマップを配布し、防災活動に役立てて貰う。

★活動の成果・課題

- ①各地区にある消火器の位置や製造年月日を改めて確認する機会になった。
- ②防火水槽の位置や数など、不足していないか知ることができた。

★苦労した点・工夫した点

現地調査中は協議会のスタッフジャンパーを着用した。



④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑦ 西小，西地区合同防災訓練【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西小体育館，校庭を会場にし，龍ヶ崎西小児童と地域住民合同の防災訓練。

★活動スケジュール・プロセス

- ①市危機管理課，消防署，警察署と相談。（6カ月前まで）
- ②企画書を作成。（3カ月前）
- ③企画書をもとに龍ヶ崎西小と打合せ（2カ月前）
- ④広報紙で龍ヶ崎西地区全戸に訓練参加の呼びかけ。（1カ月前）
- ⑤区長名で各区内に参加呼びかけの回覧。（2週間前）
- ⑥地区内各自主防災組織の合同会議を開き，協力を要請。（2週間前）
- ⑦会場準備，設営。（前日）

★活動の成果・課題

- ①毎回 550～600 人の参加実績があり，開催の成果は上がっている。
- ②各地区の自主防災組織も非常に協力的で，地域に根差した活動になっている。

★苦勞した点・工夫した点

体育館と校庭とを使い，体験種目と見学種目の配置とタイムスケジュールをきちんと立て，児童と地域住民とが入り混じらないようにした。



④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会・住民自治組織）

事例⑧ 災害時無線交信システムの導入・交信訓練の実施

【馴柴まちづくり協議会・馴柴地区自主防災会】

★活動内容

- ①大規模地震災害時に、馴柴地区災害対策本部（馴柴小学校=指定避難所に設置）が、地区内の 27 ヶ所の各自主防災会の被災・活動状況無線交信で確認して、市災害対策本部にMC A無線で伝達することにより、[各防災会⇄馴柴地区防災会⇄市]の各対策本部が、リアルタイムで連携しながら防災活動に取り組めるようにした。
- ②災害発生時に適切に交信できるように、[地区対策本部⇄各防災会対策本部]間の無線交信訓練を、定期的に毎年 4 回実施している。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 29 年度定期総会で、災害時無線交信システムを、宝くじ補助金（コミュニティ助成事業）による助成を申請して導入することを決定した。
- ②平成 29 年 11 月に市を経由して助成申請し、平成 30 年 3 月に補助決定を受けた。
- ③平成 30 年 7 月、業務用無線機システム（出力 5W）（基地局 1 基、携帯局 30 台）を購入し、馴柴小学校・体育館屋上に基地局用の高利得アンテナを設置した。（総額 182 万 5 千円、うち助成金 180 万円）
- ④対策本部に基地局 1 + 携帯 3 台、各防災会に携帯 1 台を配置し、27 の防災会を 4 ブロックに分割して、4 つのチャンネルで短時間に交信できるようにした。
- ⑤交信に習熟するための交信訓練を、毎年 4 回（4 月・7 月・10 月・1 月）実施しており、対策本部の交信員は、各ブロックが交替で務めている。

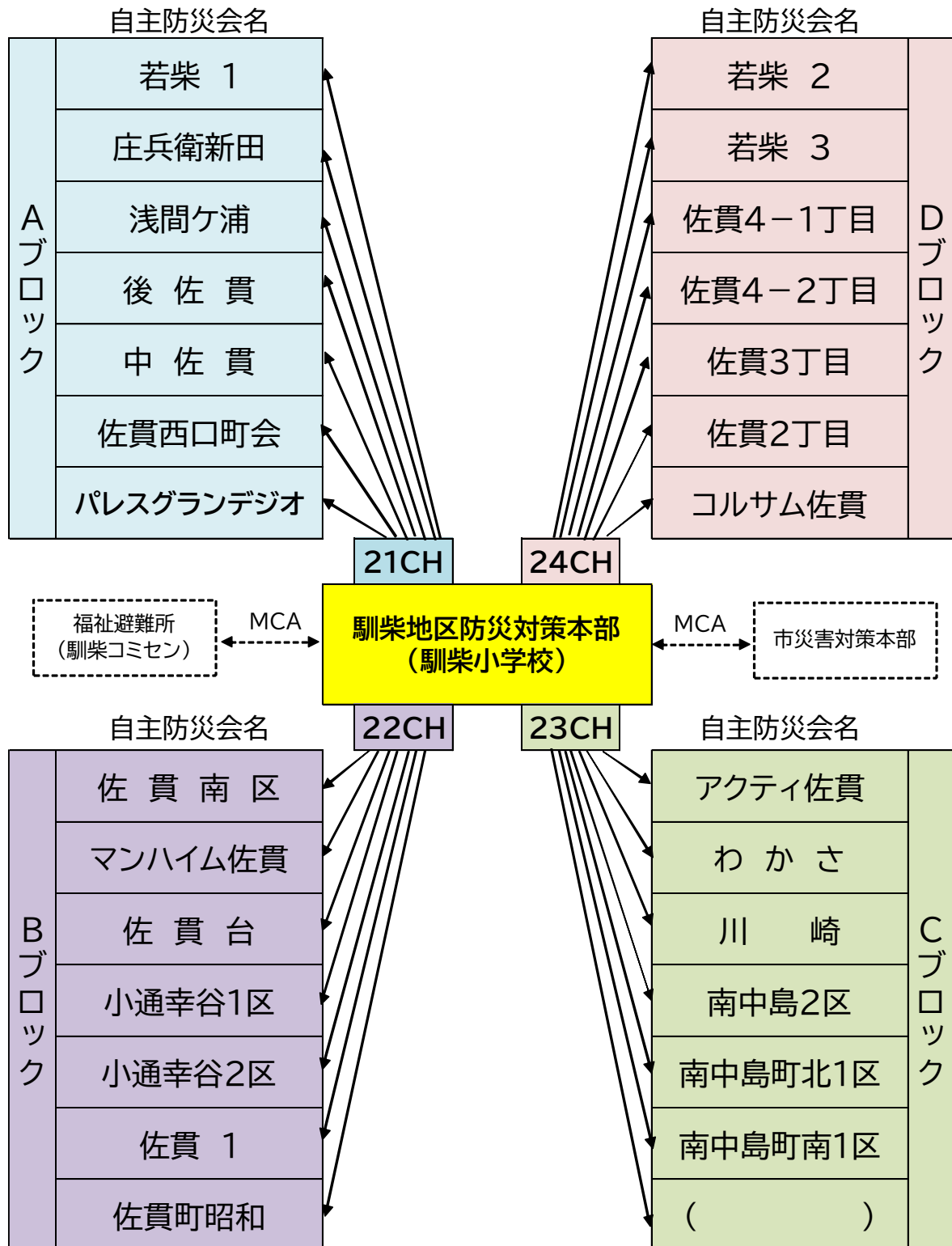
★活動の成果・課題

- ①大規模地震による広域被害多発時には、電話などによる連絡が困難になるが、この無線交信システムと市のMC A無線の活用により、[各防災会⇄馴柴地区防災会⇄市]の各対策本部間をリアルタイムで連携できるため、適切・迅速に防災活動に取り組める。
- ②毎年 4 回の無線交信訓練を実施しているため、各防災会が交信に慣れてきた。
- ③今後は、第 2 指定避難所の併設時及び地元消防団の無線機との連携等の運用の拡大について検討していく。

★苦労した点・工夫した点

- ①本部用無線機 4 台、各防災会を 4 ブロックに分けて、4 つのチャンネルを使って短時間に交信できるようにし、かつ、他の事業者との混信を極力避けるため、使用頻度が少ないチャンネル（21CH～24CH）を選んで交信している。
- ②電波が最も届きにくいブロックの防災会とは、地区対策本部側の無線機に「屋上アンテナ + 基地局」を当て、その他のブロックとは、本部用携帯局を当てて交信している。
- ③基地局は、馴柴小学校の体育館内の放送室に設置し、体育館と放送室の鍵は、コミセンの防災ボックスに収納して災害時に持ち出せるようにしている。
- ④年 4 回の交信訓練で、各防災会の交信習熟者を極力増やし、交代で各ブロックが本部交信員を務めることによって、本部交信員の習熟者も合わせて増やせるようにしている。

災害時の無線交信連絡図



問合せ先：駒柴コミュニティセンター（駒柴まちづくり協議会事務局）TEL：0297-66-7214

④防災に関する活動（行政）

事例⑨ ハザードマップウォーキング（「防災」×「健康」）【市危機管理課・流通経済大学】

協力：川原代ふれあい協議会・北文間コミュニティ協議会・龍ヶ崎地域コミュニティ協議会

★活動内容

高齢者の迅速な避難行動のためには、地域の災害リスク把握や避難行動の知識の向上と共に、避難行動に不可欠な健康体力づくりも必須。本事業ではハザードマップ内容と自身の健康体力を知っていただいたうえで、参加者に浸水想定区域を歩いていただくことで、より強い動機付けが可能と考えました。

- ①2グループに分けて、参加者全員の体力測定。
- ②2グループに分けて、「防災の手引き」を活用した災害リスクの確認。
- ③避難所までのウォーキングコースを設定し、各地区における災害のリスクの現場確認を実施。また、流通経済大学によるウォーキング指導も合わせて実施（道中で防災クイズを実施）。
- ④ウォーキング後に参加者全員に体力測定結果を手渡し、今後の健康体力づくりの機運を高める。

★活動スケジュール・プロセス

- ①令和2年9月 浸水想定区域である3地区に打診。
- ②令和2年12月 イベント会場調整。
- ③令和3年1月 3地区と事前打合せ。
（市危機管理課・流通経済大学）
- ④3会場に分けて実施。
令和3年2月9日(火)川原代地区
22人参加
令和3年2月18日(木)北文間地区
22人参加
令和3年2月19日(金)龍ヶ崎地区
19人参加

★活動の成果・課題

- ①講義とウォーキングを組み合わせた学習の機会を提供しました。アンケート調査では、全体の42%はたくさんの学びがあったとの回答がありました。これに、少しは学びがあったという回答を含めると全体の95%に成果がありました。
- ②体力測定とウォーキング指導を実施。96%が参加により運動・スポーツを実施したいという意欲を持つようになったと回答しており、今後の生活習慣改善が期待されました。

★苦労した点・工夫した点

新型コロナウイルス感染症の影響により、2グループに分けて（体力測定・防災講話）の実施になりました。コミュニティセンター内に、ポスター掲示をして地域の方、来館者の方々に声をかけたりして参加者を集めました。

◎防災講座



◎体力測定



◎ウォーキング風景



◎防災クイズ



◎体力測定結果説明



◎ロコモスキャン



問合せ先：市危機管理課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（行政）

事例⑩ 感染症を意識した避難所開設訓練【市危機管理課】

協力：松葉小学校区協議会

★活動内容

台風シーズンを迎え、新型コロナウイルスの感染症が拡大（第2波・第3波）した状況時に浸水想定される区域から高台への避難者が想定され、避難所開設が急務となります。このような状況下における避難所開設は市でも事例がないため、避難所内の感染症対策を実施したうえで避難者を受け入れることを想定し、避難者や地域住民の協力をいただきながら避難所開設訓練を行いました。

★活動スケジュール・プロセス

①日時

令和2年7月12日（日）

午前9時～午後11時

②場所

松葉小学校、松葉コミュニティセンター

③訓練参加者

- ・龍ヶ崎市職員 10人程度
- ・施設管理者 松葉小学校教職員数人
- ・防災士
- ・地域住民（松葉地区）20人程度
- ・避難者（馴染地区・川原代地区・北文間地区など）20人程度
- ・見学者 10人程度
- ・協力企業 セッツカートン（株）

つくば工場

（ダンボール間仕切りの組み立て方法について指導）

④訓練シナリオ

訓練は水害想定で実施。台風接近に伴う大雨による河川の水位上昇に合わせた災害対応を実施します。

⑤タイムスケジュール

午前9時～9時15分

訓練概要と訓練の流れについて説明。

午前9時15分～午前10時30分

避難所開設訓練。

午前10時30分～午前11時

訓練を通じての意見交換。

★活動の成果・課題

避難所開設・受付開始、避難準備・高齢者等避難開始発令、避難勧告発令の流れで訓練を行った結果、避難所となる小学校の協力、受付、検温方法、間仕切り設営、役割分担対応、夜間の熱中症対策等のさまざまな課題が出てきた。この結果を踏まえて、今後の避難所運営体制を構築していく。



問合せ先：市危機管理課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑪ タウンハウス防災訓練【小柴4丁目タウンハウス自治会】

★活動内容

- 地震発生時の火災を想定し「安全・安否確認」から「一時避難」までの訓練を行う。
- この訓練は、地震発生時に「自分がどう行動すれば良いか」「ご近所同士でどう助けあえば良いか」を確認すること、あわせて、「不足と感じたこと」や「不安と感じたこと」などのご意見をうかがって活動や体制を見直すことを目的としている。

★活動スケジュール・プロセス

午前8時45分～ 受付（出席者数確認，当日配布資料配付，班案内）

午前9時～ 開会，会長挨拶，市危機管理課職員紹介

午前9時5分～ 「訓練内容」と「火災への対応」の解説

- ・今回の訓練について
- ・「地震発生時の火災への対応」
- ・「安全・安否の確認」と「一時避難」の手順

午前9時35分～ 自宅へ戻り，休憩

午前9時55分～ 本部は「集合場所」待機，進行係は「担当ブロック」待機

午前10時～ 「安全・安否の確認」と「一時避難」の訓練開始

午前10時45分～ 一時避難完了確認後，会長挨拶後アンケート配布後，一般住民解散

午前11時～ 検討会（役員・防災ボランティア参加）
検討後，危機管理監・防災アドバイザーより講評

正午 終了



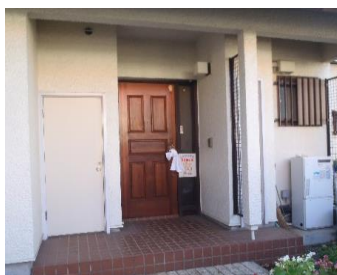
●一時避難先での様子

★活動の成果・課題

- 参加世帯数 56 世帯（57%）（役員・防災ボランティア・一般住民 計 78 人）
- 検討会・アンケートから
 - ・「ご近所同士による安全・安否の確認，一時避難」の手順は理解できた
 - ・被災時の手順の浸透を図るために繰り返す必要がある
 - ・出火予防策として，「感震ブレーカー」を全戸へ設置する
 - ・火災対策として，「スタンドパイプ」を整備する
- その他
 - ・平成23年から「防災計画説明会」「安全・安否確認」「一時避難訓練」「資機材取扱い訓練」「出火時参集訓練」「消火訓練」「救助訓練」と，毎年異なるテーマで説明会・防災訓練を繰り返し実施してきたことで防災意識が浸透しつつある。
 - ・防災ボランティア人数 10 人→28 人
 - ・居住者名簿提出率 55%→80%

★苦勞した点・工夫した点

- 住民が訓練に興味を持てるように，毎回異なるテーマで実施している
- 住民が訓練に参加しやすいように，自治会清掃日に実施した
- 訓練後の検討会で，訓練での気付きを話しあい，防災計画を見直している



●安否確認用に玄関先に目印のタオル



●訓練終了後の検討会の様子

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL:0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑫ 真に役立つ体制作り【松ヶ丘1区自主防災会】

★活動内容

災害発生時に「真に役立つ組織」とするため以下を実施

- ①機動性を向上させるため、現状の班を3グループ程度に分割
 - ・1グループ20世帯程度（8班で23グループとした）
 - ・各グループにリーダー及びサブリーダーを配置
- ②効率的な活動とするため、区会役員と自主防災会役員を兼務
 - ・区長⇒自主防災会顧問，区会班長⇒自主防災会班長
- ③災害時避難行動要支援者に対する地域支援者を配置（原則班長）
 - ・防災調査票を各戸配布し，要支援者の有無及び，支援いただける方の把握を実施
- ④防災用資機材の計画的整備
 - ・必要な資機材の整備及び，発電機の試運転（毎月実施）
- ⑤松ヶ丘1区のハザードマップの見直し及び防災組織グループ図の作成・配布

★活動スケジュール・プロセス

令和3年度より、「真に役立つ組織」として新体制発足を目指し進めてきましたが，各グループにおけるリーダー・サブリーダーが一部決まらず，規約の見直しを含めグループ体制の本格始動は，令和4年度からの実施に延伸しました。

★活動の成果・課題

- ①防災調査票による状況把握での効果
 - ・発災時，ご支援頂ける方を把握できたため，この方々からリーダー・サブリーダーを選定することができたが，一部未選定の

グループについてどのように選定するかが課題である。

- ・「支援が必要」と意思表示された方の中に，市が実施している「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」をご存知無い方がおられたが，内容説明後プランに参加された。
- ②防災用資機材の整備及び発電機の試運転による効果
 - ・優先順位を決め計画的に整備ができ，資機材の充実が図られた。
 - ・試運転を班長を含め実施したため，必要時に対する事前訓練となった。

★苦労した点・工夫した点

- ①グループにおけるリーダー・サブリーダーの選定について，コロナ禍のため対面での業務内容の説明等が不十分であったため，ご理解を頂くのに時間を要した。
- ②災害時避難行動要支援者に対するきめ細かな支援のため，半年に1回状況確認を実施している。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑬ 高砂区町会自主防災訓練【高砂区町会】

★活動内容

- ・高砂区町会自主防災訓練
- ・隔年毎に自主防災訓練を実施

★活動スケジュール・プロセス

- ・実施年度は消防署出身の町会役員が主導で計画書を作成，会議で役割分担を決める。
- ・防災訓練実施 5 カ月前より計画し，市危機管理課・龍ヶ崎消防署に行き計画書を説明し支援を依頼。
- ・作業の依頼ほか 3 カ月前に社会福祉協議会に行きポップコーン機・わた菓子機の借入書類を提出。
- ・たつのこアリーナに行きテーブル・椅子の借用依頼を提出。
- ・訓練前日に手分けして社会福祉協議会に行きポップコーン機・わた菓子機の借用ほか，たつのこアリーナに行きテーブル・椅子の借用，当日の参加者の賄い用，焼きそば・五目飯・豚汁の仕込み。
- ・防災訓練 1 カ月前に回覧板で周知後，訓練 10 日前迄に参加者を班長が把握し役員に報告。

★活動の成果・課題

- ・不慮の災害がいつ起きるか分からないので町会員が関心を持って参加することができた。
- ・消火器を初めて扱って使用方法について勉強になったと感謝された。
- ・参加者の賄い用，焼きそば・五目飯・豚汁が大好評で次回も参加したいと多くの申し出あり。
- ・子どもたち用のポップコーン機・わた菓子機の稼働により親子での参加もあり災害に備えた訓練に感謝された。
- ・町会内の保育園児の参加申し込みもあり老若男女を問わず災害時の備えとなった。

★苦勞した点・工夫した点

- ・事前に把握していた参加申込み以上に当日は多くの参加者があった。飲食品等が行き渡るか訓練実施中も心配した（前回の訓練参加者は関係者含めて 150 名参加）。
- ・多くの参加が得られるよう豚汁等の提供，子ども用のポップコーン，わた菓子機の稼働を回覧板で周知。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑭ 消火器等の点検【新町南区町内会】

★活動内容

消火器・防災備品等の点検
町内配備(41箇所)の消火器点検（年3回）
防災機材等の棚卸点検（年1回）

★活動スケジュール・プロセス

春、夏、冬の各季に消火器箱、消火器の点検、周辺の草刈りを要する場合その都度実施。
年度当初に防災機材等の棚卸点検。

★活動の成果・課題

- ・設置した消火器（箱も含む）を定期的に点検し、補修・更新を行い、消火器管理簿に記録。公園除草時に消火器を設置した箇所の除草に努めているが、実施できていない箇所があるため別途計画し実施したい。
- ・年度当初に役員全員で防災機材等の点検を行い管理台帳を更新。

★苦労した点・工夫した点

- ・消火器点検
消火器箱損傷の状況、消火器の状況をチェックし、更新期は台帳と照合。
- ・防災機材点検
役員全員で点検及び試運転を行うことにより、誰でもが必要に応じて機材を稼働可能となるようにした。

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑮ 自主防災組織の取組【馴馬町上米区】

★活動内容

1. 組織の強化：区長直属の専門部会を設置し、特命事項について企画・立案・実行を推進する。
2. 災害時の行動指針の策定：防災の手引きを活用し、災害に対する心構えを啓発する。
3. 防災倉庫の整備：地域の災害支援に対応出来る工具、機械、電気製品等の充実を図ると共に、非常食、水等の備蓄品を確保する。

★活動スケジュール・プロセス

1. 末端まで機能する新組織体系の構築。
2. 防災手引き、災害に対する行動の手引き作成、配布、説明会開催。
3. 防災コンテナを馴馬財産区上米会館に設置し、防災関連備品を格納。
4. 防災パックの購入、支援、配布
1 世帯当たり 2 個まで。1 パック当たりの費用負担を 1,000 円とし、残額 3,000 円は区負担とした。

★活動の成果・課題

1. 専門部会を設置し、責任と権限を明確化することにより、メンバーの意識が高まりアクションがスピード化した。
2. 行政や区の情報が各家庭に迅速に伝わる様に、班の構成を 10 世帯以内に整理した。
3. 体制を維持、強化して行くことが重要であり、また地域住民とのコミュニケーションを継続的に図って行くことが課題。
4. 予算の関係もあり、防災関連備品はまだまだ不十分で、継続して充実化する必要あり。
5. 防災パックの配布は防災意識高揚の一環として実施。

★苦勞した点・工夫した点

1. 組織を活性化させる為、区長直属の専門部会（総務、防災、環境）を設置し、活動のレベルアップとスピード化を図った。
2. 部会活動の活性化は、問題意識を持ったリーダーの配置が絶対条件である。

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑯ 自主防災組織の取組【水門2区】

★活動内容

地域の防災に関する諸活動

- ・ 地域内防災訓練の実施
- ・ 防災倉庫の備品充実化
- ・ 地域内消火設備の点検
- ・ 防災関連（台風、水害等）の広報

★活動スケジュール・プロセス

1. 年度初めに年間活動計画を策定。
2. 毎月1回定例会議を開催。
3. 各イベント、活動等は年間活動計画に基づき実施。

★活動の成果・課題

1. 継続的活動により、地域の防災意識は確実に高まっている。
2. 自主防災会会員の更なる増強が課題。

★苦勞した点・工夫した点

予算が潤沢に有る訳ではないので、防災備品の充実化は予算との調整が必要。

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑰ 防災訓練及び懇親会【久保台自治会】

★活動内容

久保台行部内公園にて、自治会会員相互の防災意識を高めることと、会員相互の親睦を図ることを目的として、防災訓練及び会場内での炊き出しをはじめ、子どもを中心としたゲームなどを実施する。地域内コミュニケーション、助け合い精神の促進、大規模災害緊急時におけるスムーズな対応を目指す。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 30 年 5 月 14 日 会議
（当日までのスケジュール確認）
- ②平成 30 年 7 月 9 日 会議
（実施内容、準備物の検討）
- ③平成 30 年 8 月 19 日 会議
（当日のスケジュール、準備物の確認）
- ④平成 30 年 8 月～10 月
 - ・ちらし、チケット等の作成、参加者募集、
 - ・消防署との打ち合わせ
 - 食材、縁日の景品等の調達、レンタカーの手配等
- ⑤平成 30 年 11 月 4 日
防災訓練、懇親会実施

★活動の成果・課題

- ・防災訓練は、消防署の方のご指導と自主防災会の方々のご協力により、大変充実した防災訓練ができた。市長をはじめ、50 人を超える自治会員の参加をいただき、会員の皆さんの防災意識を、真剣かつ楽しい雰囲気の中で高めることができた。

- ・懇親会は、さらに多くの参加者（300 人超）となった。豚汁等の炊き出しの他、子ども神輿、縁日の各種出し物、玉入れゲーム（子どもの部、大人の部）、全員参加ビンゴゲームと、多くのイベントで盛り上がり、とても楽しかったとの声を多く聞くことができた。ごみも全て参加者で分担して持ち帰りいただき、後片付けもスムーズだった。総じて自治会会員相互の一層の親睦、連携を深めることができたと考える。

★苦労した点・工夫した点

- ・午後の懇親会で使用する食材の下ごしらえのため、午前中の防災訓練に参加できないメンバーがいた。
- ・他の自治会の役員を招待したことで、他自治会との交流を深めることができた。
- ・受付の人数を前年度から増やしたことで、余裕をもって受付ができた。
- ・縁日は子どもたちに大変好評だった。



④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑱ 防災イベント～大地震発生による被害に備えよう【平台2丁目自治会】

★活動内容

【日時】令和元年10月20日（日）

午前9時～正午

【場所】馴馬台小学校体育館及びその脇の校庭

【内容】

①防災訓練

・参集訓練

馴馬台小学校を避難場所と想定し、防災行政無線放送を合図に参集訓練を行う。

・消火器訓練、AED訓練

2班に分かれて、交替で訓練する。

②炊き出し訓練

餅つき、豚汁をつくり、会場で食べる。

③お楽しみ抽選会

防災用品の抽選会を行う。（世帯ごと、空くじなし）

④訓練参加景品・お土産

閉会式終了後、訓練参加景品・お土産を配付する。

（訓練参加者→携帯アルミブランケット、参加者全員→アルファ米）

★活動スケジュール・プロセス

①令和元年3月

定期総会において、自治会イベントの会員アンケート実施及び予算を決定。

②令和元年5月

自治会会員に対し、「イベントに関するアンケート」を実施。

③令和元年6～8月

アンケート結果を踏まえて役員会及び役員・班長会で協議し、10月20日（日）に馴馬台小学校体育館にて「防災イベント」を実施することを決定。

④令和元年9月～前日

会場の確保、市危機管理課との打合せ、参

加者の募集（9月15日）、器材の調達、従事者の検便、サポーター募集及びサポーター会議（10月5日）の実施。

⑤令和元年10月10日

参加申込者へ「開催のお知らせ」及び「お楽しみ抽選会参加用紙」を配付。

★活動の成果・課題

【成果】

防災行政無線放送を利用した参集訓練から始めることにより、災害時の現実感を体験することができた。併せて、餅つきや抽選会などの楽しいメニューを用意し、住民の親睦を深めることができた。

【課題】

準備に手間を要した割には、予想以上に参加者（49人）が少なかった。今後は事前のPRの強化など、参加者の増加に工夫を図る必要がある。

★苦労した点・工夫した点

①餅つきや豚汁づくり等は、器材の調達や従事者の検便など、事前準備に多くの手間を要した。

②誰もが参加したくなるように、防災訓練、餅つき・豚汁づくり、及び空くじなしの抽選会など盛り沢山の内容を取り入れ、「より楽しく、為になる催し」となることを狙った。

③地域コミュニティ協議会（馴馬台地域ひなっこ協議会）の応援金制度を活用し、費用の大半に充てた。

◎体育館出入口での準備状況



◎もち米の蒸し状況



◎テント張り



◎豚汁食材準備状況



◎豚汁用の食材



◎餅つき開始



◎受付状況



◎つきたて餅の試食



◎きな粉餅, のり巻き餅作り



◎参加賞等の抽選状況



◎消火器取扱い訓練



◎防災イベント状況



◎AED 等操作訓練状況



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑱ 自主防災訓練【花丸区】

★活動内容

花丸地区自主防災組織により、年に1度防災訓練を実施。

★活動スケジュール・プロセス

- ・毎月行っている花丸地区 22 班による班長会議で、防災訓練の日時を決め消防署に申請する。
- ・消防署に協力してもらい 10 月に防災訓練を実施している。
- ・花丸会館を会場に各班長が参加し、9時から応急手当・担架作り・AED・水消火器などの訓練を行う。
- ・訓練終了後、弁当を配り反省会を行いながら親睦を深める。

★活動の成果・課題

防災訓練の活動を通して、いざという時に動けるよう住民同士が協力をして、地域のつながりを強くし防災意識を高めている。

★苦労した点・工夫した点

毎年各班長が参加するので、一巡すると全世帯が防災訓練を体験したことになる。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑳ 安否確認訓練【須藤堀町本田区】

★活動内容

自主防災会役員の行動と住民の安否確認表示行動の訓練。役員は、自主防災会本部の立ち上げと安否カードの確認、各役割に応じた行動、住民は電気・ガス等の安全確認と同居者の安全を確認したうえで安否確認カードを玄関前、門などの目立つ所に掲示し状況を示す。

★活動スケジュール・プロセス

令和3年10月24日 午後1時～午後2時30分
防災無線の訓練開始を合図に実施。

【役員行動】

- ①防災対策本部の立ち上げ：本部前道路の緊急車両通行確保・防災用品の設置・AED・コミセン防災倉庫等の確認。（時間計測も含む）
- ②個別安否確認：役員が各家庭を確認し、確認済の場合は安否カードに確認済の付箋紙を貼り付け確認完了が各家庭に分かるようにした。

【住民行動】

- ①同居家族の安否確認。
- ②電気・ガス・緊急持ち出し用品（常用薬等）の確認。
上記2点を確認した結果で安否確認カードを掲示。
午後2時30分 防災無線の終了放送で完了。

★活動の成果・課題

- ①安否確認カードの提示は全世帯（40世帯）協力いただけた。
- ②行動マニュアルを作成して行動したため、役員行動は問題なく完了した。

<課題>

防災用具等の不足、個別安否確認のS O

S に対しての情報連携と行動の整理。

★苦労した点・工夫した点

- ・初めての地域訓練のため、住民の周知方法として各班長に手渡しにて訓練手順書を配布して住民の参加意識を高めた。（回覧では、意識が薄い場合がある）
- ・防災本部という一般では経験ができない方法にて役員のモチベーションを上げることができた。

◎防災本部の設置



◎安否カード



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例②① 大規模災害時の自衛消火【南が丘自治会】

★活動内容

南が丘団地は市中心部から 3km 程度離れており、大規模地震発生時には消防隊は市内の消火に掛かりつけとなり、派遣が間に合わないことが想定される。

そういった場合、団地内の消火栓からスタンドパイプにより、住民が消火活動を行えるように装備した。

★活動スケジュール・プロセス

令和 2 年 9 月

スタンドパイプの装備化を検討開始。

令和 2 年 11 月

スタンドパイプによる放水演習を体験。

スタンドパイプの有効性と活用の可能性を確認した。

令和 3 年 2 月

令和 3 年度にスタンドパイプの調達経費を予算化。

令和 3 年 5 月

スタンドパイプ購入。

令和 3 年 7 月

スタンドパイプを使い1回目の放水訓練実施（役員のみ）。

令和 3 年 8 月

スタンドパイプを使い2回目の放水訓練実施（住民参加）。

令和 3 年 11 月

スタンドパイプを使い3回目の放水訓練実施（住民参加）。

★活動の成果・課題

<成果>

①消火栓から 140mの地点からの放水でも、放水の到達距離は 20m、高さは 2 階の屋根まで到達することを確認できた。

<課題>

②住民による放水訓練の習熟が必要。

③いざという時に活動できるよう、出動体制（人員）と即応体制（保管場所）の確保が必要。

④消火栓から 140m以遠の場所の家屋の消火対応を早急に解決する。



⑤防犯に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 青色防犯パトロール【馴染まちづくり協議会】

★活動内容

- 平成 30 年 6 月から青色防犯パトロール車（以下「青パト」）による馴染地区全体の安全で安心な街を作るためパトロール活動を実施中。（コミセンの休館日を除く）
- ・パトロール協力者は馴染地区内の住民および防犯連絡員で構成。
- ・馴染地区を 3 ブロックに区分、各ブロックは 8 班構成、各班の人数は 2～4 人、各班運転者人数は 1～3 人、各班のパトロール実施証取得者人数は 1～4 人体制で実施。
- ・基本パトロール開始を午後 3 時（登下校時間帯における児童の見守り等）に設定し各班が月 1 回パトロール実施。（約 15 km, 約 1 時間）
- ・各ブロックに基本ルートを設定しているがブロック内のルートについては各班に任せている。

★活動スケジュール・プロセス

- ・平成 28 年 3 月 青パト実施構想および自家用車による試験的防犯パトロールの参加者募集について馴染地区内の住民自治組織・防犯連絡員へ説明会を実施。
- ・平成 28 年 6 月 11 日 試験的防犯パトロールの具体的実施方法を協力者へ説明会実施。
- ・平成 28 年 7 月～平成 29 年 7 月末まで馴染地区を 3 ブロックに区分し自家用車による試験的防犯パトロールを約 70 名で実施。
- ・平成 29 年 6 月 青色回転灯を装備した車両による自主防犯パトロールの実施団体として委嘱状受理。（龍ヶ崎市長名）
- ・平成 29 年 8 月 青パト講習会 56 人受講。
- ・平成 29 年 8 月 青色回転灯を自動車に装備して適正に自主防犯パトロールを実施することができる団体として登録受理。（茨城県警察本部長名）

- ・平成 29 年 9 月 12 日 青パト仕様市公用車配備。（青パト仕様公用車の貸出しの規則が明示されないため一時活動保留）
- ・平成 30 年 4 月 21 日 青パト活動開始あたって協力者に説明会開催。
- ・平成 30 年 6 月 5 日 本格的に青パト活動を開始。
- ・平成 30 年 6 月 16 日 青パト出発式を市長、警察署長、市議会議員、協力者等出席し実施。
- ・青パト実施予定表を 3 カ月毎に作成し協力者へ配付。
- ・青パト車に設置の拡声器による広報活動を年 2 回実施。

★活動の成果・課題

〔成果〕

- ・青色回転灯は視認性が高いため犯罪抑制効果が図れた。
- ・地域住民に安心感や注意喚起を与えることができた。
- ・パトロールを通じて住民同士の絆が深まり交流の輪が広がった。
- ・パトロールを通じて地域での問題点の把握や情報の共有化が図れた。

〔課題〕

- ・青パト協力者の高齢化による若手の協力者入団促進。
- ・現在の青パト体制は、ある班では運転者 1 名・パトロール実施者証取得者 1 名のところがあり運転者またはパトロール実施者証取得者が欠席の場合にパトロールができなくなるケースがあるため運転者やパトロール実施者証取得者の確保と班編成の見直し等が必要。
- ・現在は青パト車で馴染地区内をパトロールのみのため今後、パトロール中に小学校やコンビニ等の場所での 10 分程度の立哨を実現

化。青パト車の運転協力者からの免許証更新の都度にコピー写しの回収管理の簡素化。

★苦勞した点・工夫した点

- ・自家用車による試験的防犯パトロールの活動成果を協力者に説明したうえで青パト活動の重要性を協力者にアピールを行い本格的な活動開始への協力を依頼した。
- ・独自に青パト車の調達にあたり自動車販売店とのリース契約や予算確保などの調整に苦慮している中、各コミセンに青パト仕様市公用車の配備が決定された。
- ・パトロール実施者は月一回、実施基本開始午後3時にパトロールを設定。ただし、都合が悪い場合は日程や時間変更を可能として活動がしやすいようにした。
- ・パトロールのルートについて意見要望等によりルートの見直しを実施した。
- ・協力者を募るのに住民自治組織代表および当地区の防犯連絡員にも協力を呼び掛けた。
- ・服装は防犯ベストおよび帽子を用意しパトロール時に着用し一体感を高めた。
- ・運転免許証（写し）管理およびパトロール実施者証（写し）をブロック別、班別にカードファイル（A4 サイズ）に収納し管理を容易にした。

◎自家用車による試験的防犯パトロール出発式



◎青色防犯パトロール出発式



問合せ先：馴柴コミュニティセンター（馴柴まちづくり協議会事務局）TEL：0297-66-7214

⑤防犯に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 防犯パトロール【龍ヶ崎地域コミュニティ協議会】

★活動内容

協議会立上げ前の設立準備会において、できていなかった町会があり、「全ての町会でのパトロール実施」を話し合いました。

「地域の安全は私たちが守る」を合言葉に、徒歩による防犯パトロールを協議会委員と地域の協力者の体制で、地区内全域の範囲で行っています。夜間パトロール中には、防犯灯故障や危険個所がないかの確認も併せて行っています。

★活動スケジュール・プロセス

龍ヶ崎小学校区内 24 地区において、毎月第 3 金曜日午後 6 時 30 分より、各地区交代で年 2 回ずつ徒歩によるパトロールを実施しています。



★活動の成果・課題

①重点的に、各町内の公園を見回り、特に中高生の非行防止に努めている。

（中高生が夜遅くに公園に集まっていないか確認。）

②防犯パトロール中に、側溝の蓋の破損を見つけ、市に連絡し、事故の起こる前に、すぐに対応することが出来た。

★苦勞した点・工夫した点

パトロールに登録している方は、全体で 120 人程いますが、毎月の防犯パトロール当番時の各町内での、見回り参加者は、各回とも、5～10 人程度となっている。



問合せ先：龍ヶ崎コミュニティセンター（龍ヶ崎地域コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-62-8885

⑤防犯に関する活動（住民自治組織）

事例③ 防犯・防災見守り隊【高砂区町会】

★活動内容

- ・高砂区町会内防犯・防災見回り隊（「きれいに支隊（注）」とリンク）実行委員会を創設し定期的活動を実施。
- ・活動は町会内の街灯・消火器確認や通学路の安全確保状況。（除草や公園内危険物の撤去）

★活動スケジュール・プロセス

- ・町会内の公園（2カ所）危険物の撤去，旧市営住宅跡地・通学路の防犯・火災予防のため定期的に見回りのうえ除草を実施。
- ・活動町会員は町会役員が中心である。班長および町会員の参加は4月に回覧板で周知。

★活動の成果・課題

- ・通学路の防犯・防災による除草実施活動には児童・生徒の保護者から多く感謝された。
- ・公園内の見回りにより危険物の撤去や除草作業に公園利用の親子から感謝された。
- ・防犯・火災予防見回りおよび危険物の撤去や除草作業により新興住宅地の方々とコミュニケーションが図られ意見交換ができた。

★苦労した点・工夫した点

- ・「きれいに支隊」の実行委員同様に4月～5月までは参加人数は多いが6月～9月上旬までは猛暑により参加者は激減する。また12月中旬から2月末の厳冬期も寒さにより参加人数は激減した。
- ・少しでも多くの町会員の参加で防犯・防災見回りおよび危険物の撤去や除草作業が活動出来るよう作業後のお茶や軽食を用意した（まちづくりポイントシールの寄付制度を活用）。

（注）「きれいに支隊」は65ページに記載していますので，ご参照ください。

⑤防犯に関する活動（住民自治組織）

事例④ 夜間防犯パトロール【佐貫西口町会】

★活動内容

- ・夜間防犯パトロールの実施。
- ・2人一組で実施。
- ・西口町会の115世帯の見回り及び防犯灯の確認。

★活動スケジュール・プロセス

- ・定期総会にて防犯パトロール実施の決定。
（平成25年度より継続、今年度で9年目になります。）
- ・1日と15日の月2回の防犯パトロール実施。
- ・日没後、指定のジャンバー、たすき、懐中電灯を装着し班ごとに防犯パトロール実施。

★活動の成果・課題

- ・当町会は市の顔でもあるJR龍ケ崎市駅の西口にあり、駅を利用する市民や通勤・通学者に安心・安全なまちづくりという大きな目標に、常日頃より一丸となり、気を配る癖が付くように継続する事が一番大切な事と思います。
- ・高齢化が進む中、パトロール中の事故等が懸念されます。今後は若い会員にスムーズに引き継いでもらいたいと思っています。
- ・防犯灯もLED化されたため、球切れの心配は現在はありません。
（以前は、日没時刻の早い時期である冬場に球切れがあり、大変でした。）

★苦勞した点・工夫した点

- ・何か問題があれば、各班長に報告。各班長は執行部に報告という順番になっています。
- ・現在まで特に問題はありませんので、パトロールが功を奏しているものと思われます。
- ・すれ違う時に挨拶をすれば良いのですがなかなか思うようにはいかないのが現状です。小さな事からの積み重ねを心がけていきます。



⑤防犯に関する活動（住民自治組織）

事例⑤ 空き巣等の防犯活動【南が丘自治会】

★活動内容

近年、空き巣被害に遭い、自治会防犯防災部として事件防止のため毎月1回町内の防犯パトロールを行っているが、犯罪は夜間及び昼間の人の行き来が無い時間帯に発生していることから、市の助成金を活用し、犯罪の未然防止と監視機能を高めて防犯機能向上のため、防犯カメラを設置した。

★活動スケジュール・プロセス

平成30年6月

防犯カメラ導入の検討開始。

令和元年1月

防犯カメラ設置事業開始。

令和元年4月

- ①市役所に防犯カメラ設置事業補助金申請。
- ②市役所から補助金交付決定が出された。
- ③設置工事開始。
- ④防犯カメラ稼働開始。



★活動の成果・課題

令和2年1月

月極駐車場から乗用車が盗まれる窃盗事件発生。

令和2年2月

警察から、自動車窃盗事件に関し、防犯カメラの記録提供の要請があり提出。

令和3年4月

- ・空き巣被害に遭い、警察より防犯カメラの記録提供の要請があり提出
- ・現時点では防犯カメラによる犯人検挙に至っていないが窃盗犯に対して、抑止効果があると考えている。

★苦勞した点・工夫した点

防犯カメラの設置場所で困ったが、市役所と相談して公園の一角を借用して解決した。



⑥環境美化に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 花づくりコンクール【馴柴まちづくり協議会】

★活動内容

- ・花いっぱい運動の一環として、個人や団体で花づくりをしている光景や花の写真を募集し、審査の上、表彰する制度。（平成 25 年度より実施）
- ・入賞作品（写真）は、市の環境フェアやコミセンまつり会場に掲示し、紹介する。
- ・他に関連して、花づくり講習会と春植え球根・種子等の配付を行っている。

★活動スケジュール・プロセス

- ・対象期間：通年
- ・募集締切：当年 11 月末日
- ・募集要領：写真（2L サイズ）6 枚まで
：活動状況やエピソードを付記
- ・審査：翌年 2 月初旬
（会長・環境委員会委員）
：個人・団体別にまち協会長賞、
：金賞、銀賞、銅賞を選考する
- ・表彰：翌年 2 月末頃
（コミセンまつり会場で行う）

★活動の成果・課題

- ・成果：花づくりコンクールに関連し、公共施設（公園・遊歩道）での花植えが徐々に浸透し、環境美化活動が拡大しつつある。
- ・課題：回を重ねる度に応募数が減少傾向。（マンネリ化）
 - ：団体の部の応募数が固定化。
 - ：個人の場合はあくまでも趣味で行われており、なかなか応募頂けない。
 - ：一度応募した方の、再応募が期待できない。
 - ：団体の場合は、場所と経費・マンパワーの問題を解消することが必要。
 - ：まち協と自治会の連携が必要。

★苦勞した点・工夫した点

今年で第 9 回目を迎え、回を重ねる度に積極的な応募が期待できず、これまでに毎回応募の促進活動を行わなければならなかった。（協議会広報紙「まち協にゅーす」での周知・環境委員会委員が個別に対応）

◎花づくりコンクール受賞作品展示



◎春植え球根・種子等の配付



⑥環境美化に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② 蛇沼公園再生プロジェクト【長山地域コミュニティ協議会】

★活動内容

公園の清掃整備を市にお願いするだけではなく、公園を利用する側も環境整備の活動が必要との思いから、平成 26 年 9 月から活動を開始しました。

公園が緊急時の避難場所でもあることから、さらに整備の枠をひろげ倒木の危険がある立木の伐採、朽ちた階段の更新、朽ちた杭、切れたロープの更新等を行い子どもから大人までが安心して集える公園を維持する環境整備活動です。

★活動スケジュール・プロセス

毎月第三日曜日に活動を行っています。

普段、公園の見回りを通じて次回の整備する場所を設定しています。

活動の費用については地域コミュニティ協議会の予算でまかなっています。協議会の役員会に報告書を提出、全戸配布の広報紙「ぷらざ」に実施状況、次回の予定を掲載しています。

★活動の成果・課題

コミュニティセンター活動推進協議会での活動とし立ち上げたが、最近では地域住民、長山中学校の生徒、市民活動センターからも応援をいただいている。また、自然を守るため草花の植栽は行っていない。このため活動中に公園内で見かけなくなった種があります。また、季節になると目を楽しませてくれる貴重な種もあります。また、特定外来種であるミドリガメ（ミシシippアカミミガメ）が日なたぼっこをしている姿を見受けられます。（沼の中に立ち入ることは行っていません。）

危険生物（スズメバチ）については普段の見回り、地域の皆様からの情報にて確認対応を行っています。撤去は市に依頼しています。

★苦勞した点・工夫した点

鋤、鎌、鍬で人手にて作業を行っていましたが効率化を実現できる刈払機、チェーンソー、ブロアー、リヤカー等の機材を取り揃えることにしました。

このために赤い羽根共同募金基金から援助金、コミュニティ協議会の予算の確保、個人からの寄付を頂きました。

また、公園の利用者の方々から活動中「ご苦勞さま」、「いつもありがとうございます」等の声を頂くことが励みです。

長きに渡り活動を続けられているのは地域の皆様のご協力のおかげと感謝しています。



問合せ先：長山コミュニティセンター（長山地域コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-66-7285

⑥環境美化に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ 花いっぱい運動【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

市道路整備課の公共施設里親制度（アダプト・プログラム）に基づき、一年を通じて龍ヶ崎西小前の通り2カ所の花壇を整備し、花で沿道を飾る活動をしている。

★活動スケジュール・プロセス

- ①毎年春と秋に打ち合わせを行い、花壇に植える花を選定し業者に発注する。
- ②花を植える前に花壇の整備（耕作、肥料散布等）をする。（花植え1カ月前）
- ③花植え後は月2回のペースで、除草、水やり、肥料散布等を年間を通して行う。
- ④年に1度は植物園、フラワーパーク等に、花壇整備の研修会を依頼し、開催している。

★活動の成果・課題

沿道を花で飾り、地域住民に喜ばれている。

★苦勞した点・工夫した点

環境美化委員だけでなく、協議会内の他委員会のメンバーも交代で参加している。



⑥環境美化に関する活動（住民自治組織）

事例④ 地域内清掃活動【白羽1区自治会・白羽長寿会（白羽SSクラブ）】

★活動内容

1. 年3回の「わがまちクリーン大作戦（市内一斉清掃）」に合わせ地区の清掃活動及び公園の草刈を行っている。（当日、炊き出しを行う事もあり毎回約150人の参加がある）
2. 白羽長寿会では毎月第3月曜日に白羽地区全体のゴミ拾いを行っている。

★活動スケジュール・プロセス

1. 市内一斉清掃時の時間は7時からで豚汁の準備は自治会班長また役員が6時から担当する。（食材は前日用意する）
また、ゴミ集積場所の第一公園の草刈、剪定は役員、及び班長で行う。
2. 白羽長寿会の毎月第3月曜日のゴミ拾いは8時過ぎから9時過ぎまで行う。（参加者は約5～10人）



★活動の成果・課題

1. 市内一斉清掃は街がきれいになるだけではなく、炊き出しなどもあり住民同士の親睦にも役立っている。また、家族連れの参加も多く子どもの教育にも寄与している。

★苦勞した点・工夫した点

1. 市のまちづくりポイント制度の寄付制度を活用し、炊き出しの費用としている。
2. 白羽長寿会の毎月第3月曜日のゴミ拾いはその後のグラウンドゴルフも楽しみとなっている。



⑥環境美化に関する活動（住民自治組織）

事例⑤ 公園清掃活動【新町南区町内会】

★活動内容

公園内の除草及び花壇整備。

- ・子ども会と協同して、繁茂状況により適宜除草。（年5回程度）
- ・時期によって花苗などの移植も協同で実施。

★活動スケジュール・プロセス

- ・年間スケジュールは特に定めていないが、繁茂状況によって1カ月～2カ月間隔で実施。
- ・費用は公園維持費として町内会の予算に計上，総会承認を得る。

★活動の成果・課題

少子高齢化が一段と進行する中，町内唯一の公園を常に除草整備し，安心・安全な環境で住民が集い・憩える場にしたい。子ども会と協同して活気あふれる楽しい作業を行い，子どもたちが安心して遊べる広場として地域外の利用者の増加も期待し，賑わいの場として定着させたい。

★苦勞した点・工夫した点

- ・子ども会としての活動が徐々に縮小している中，町内事業を協同で実施することで，子ども会活動の見える化を実現。
- ・子ども会の作業参加は自由とし，おやつは子ども会負担，飲み物は町内会で用意。
- ・作業終了後は子どもたちがおやつを手に，自由に遊んでもらう。



⑥環境美化に関する活動（住民自治組織）

事例⑥ 除草作業【半田町区】

★活動内容

公園等地域の草刈り及び木の伐採を、主に市のわがまちクリーン大作戦（市内一斉清掃）後、年5回実施する。（令和2・3年は、コロナ禍のため異なる。）

★活動スケジュール・プロセス

①4月 総会にて年間予定決定。

②6・8・10・11・3月に実施。

市のクリーン大作戦後とお盆前及び地元祭り（八幡様）前日に実施する。実施前に、草刈り機等の点検及びゴミ袋等、お茶の準備をする。



★活動の成果・課題

草刈り及び木の伐採後は、公園等が明るく環境が良くなり、住民の安心・安全に資することができる。

★苦勞した点・工夫した点

草刈り後の処分は、堆肥として利用する近所の人に運びました。

また以前伐採した木等の処分は、できるだけ乾燥させ処分場へ運びました。

（草刈り箇所2カ所、運搬担当と分担して作業に当たりました。）

⑥環境美化に関する活動（住民自治組織）

事例⑦ 廃品回収事業【高砂区町会】

★活動内容

四半期ごとに廃品回収事業を実施。（6月・9月・12月・3月に実施）

★活動スケジュール・プロセス

- ・6月は第一日曜日に実施。（市の市内一斉清掃の後に実施）
- ・9月は第四日曜日に実施。
- ・12月は20日過ぎの日曜日に実施。
- ・3月は第一日曜日に実施。（市の市内一斉清掃日後に実施）
- ・廃品回収日前には回覧板で周知伝達し、ほか廃品回収日前日の土曜日に町会内をマイク放送で周知・伝達、また廃品回収日もマイク放送で周知・伝達を実施。

★活動の成果・課題

- ・四半期ごとに廃品回収事業を（6月・9月・12月・3月に実施）マイク放送で周知・伝達を実施しているので協力者が毎回、増えている。
- ・6月・3月は市の市内一斉清掃の後に実施なので特に協力者が多く参加。
- ・廃品回収事業で得た資金は12月上旬の親子三世代交流餅つき大会等で活用する。

★活動の成果・課題

- ・町会役員が各家庭を見回りして廃品回収事業を行っているが、回収もれがある。
- ・廃品回収事業を始めた時は実施半月前頃に回覧板で周知したが、参加協力者も少なかった。マイク放送で周知・伝達を実施後は始めた頃に比べて数倍の協力者が増えた。

⑥環境美化に関する活動（住民自治組織）

事例⑧ 高砂区町会きれいに支隊【高砂区町会】

★活動内容

- ・高砂区町会として、公共施設里親制度に参加している町会内の草刈りについて、実行委員会を創設し、定期的に活動を実施する。
- ・通学路脇の草刈りほかごみ拾いを実施する。

★活動スケジュール・プロセス

- ・4月より町会内の公園（2カ所）・旧市営住宅跡地・通学路脇等を毎月実施。
- ・特に公園内の草刈や雑木の伐採・剪定については見回りを実施。
- ・活動は町会役員ほか班長が主導で町会員の参加は回覧板で周知し参加者を募集。
- ・活動後、お茶・お茶菓子を用意、活動についての意見交換を実施。次回の参考としている。

★活動の成果・課題

- ・特に通学路の除草・ごみ拾いで地域の安全・安心感が向上し町会環境が良くなった。
- ・公園内で遊ぶ親子たちから感謝されている。話しかけられることもあり、最近引っ越してきた住民とのコミュニケーションにもつながっている。
- ・活動後のお茶の時間帯で意見交換等今後の参考となる事案等があり有意義な時間となった。
- ・町会役員と班長および町会員が話し合う機会が増えてコミュニケーションが図られた。

★活動の成果・課題

- ・町会役員は別として、年間を通して参加者は限られた人となっており、できる限り多くの住民に参加してもらいたいと思います。
- ・4月～5月までは参加人数は多いが6月～9月上旬までは暑さにより参加人数は激減した。
また、12月中旬～2月末の厳冬期も寒さにより参加人数は激減した。
- ・少しでも多くの町会員の参加で除草作業の活動ができるよう作業後のお茶や軽食を用意した。
(まちづくりポイントシール寄付制度を活用)

⑦地域の伝統・文化に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 鳥追い・ならせ餅【川原代ふれあい協議会】

★活動内容

消えゆく地元伝統行事の継承を目的に「鳥追い祭り・ならせ餅」を開催。

「無病息災」「五穀豊穡」「家内安全」「交通安全」「商売繁盛」「合格祈願」を願い、子どもから大人まで楽しめる行事である。

★活動スケジュール・プロセス

- ①10月～11月に農家からもち米を1俵半購入、わらの確保。
- ②12月に保健所・消防署へ書類を提出。
- ③1月正月明けの日曜日にコミュニティセンター裏で、切ってきた竹とわらと縄で鳥追い祭りの小屋作り。前日は買い出しをして、食材を用意。
- ④1月13日もち米を水に浸し、食紅で着色。買い出しをして、もつ煮、雑煮の汁、鴨鍋、あんこ、きな粉を用意する。
- ⑤1月14日8時から紅白のもち米を蒸かし、ならせ餅の餅を丸める。ならせ餅用の樁の木（協議会、川原代小、市役所に飾る）を切りに行く。夜のどんと焼き用の篠を100本切ってくる。
- ⑥来賓、川原代小の児童と餅つき後、餅を食べて、樁の木に紅白の餅を咲かせる。コミュニティセンターに飾るならせ餅は20日に餅の数当てクイズを行う。
- ⑦暗くなってから、小屋に火をつけて鳥追い祭り（どんと焼き）を行う。正月飾り・お札・お守り・ダルマのお焚き上げをする。その火で、篠につけた餅を焼いて食べ、「無病息災」「五穀豊穡」「家内安全」「交通安全」「商売繁盛」「合格祈願」を願う。用意していたもつ煮、雑煮、鴨鍋、あんこ、きな粉、焼き鳥をふるまう。
- ⑧ならせ餅は、「20日の風に当てるな」とい

う言い伝えがあり、20日に餅をもぎとり数を数えて、数当てクイズの当選者にはプレゼントをする。餅はしばらく乾燥させて、あげ餅を作る。

★活動の成果・課題

餅つきとならせ餅は日中に行うので、一般の参加者が少ない。川原代小の児童が餅つきを楽しみ、とてもおいしいと喜んでいる。

伝統行事なので、小屋の作り方から子どもたちに覚えてもらいたい。子どもから大人まで楽しめる伝統行事なので、これからも続けていきたい。

★苦労した点・工夫した点

小屋作りにわらをたくさん使い農家から集めていたが、最近は、稲刈りの時に機械で碎いてしまうので、集めるのが大変になり、インターネットで購入もしている。地域の方から樁の木を切らせていただいているが、毎年行っているので樁の木を探すのが大変になってきた。

1俵半のもち米を蒸かして丸めて、木にならせるまでの時間が短いので、手伝いの人数と手順が大事である。小屋の燃える火が空高く上がるので、しっかり消火をするようにする。



問合せ先：川原代コミュニティセンター（川原代ふれあい協議会事務局）TEL：0297-66-7263

⑦地域の伝統・文化に関する活動（住民自治組織）

事例② 盆綱【千秋区】

★活動内容

「盆綱」は、宮渚町千秋地区に古くから伝わる伝統行事で、盆の入りの8月13日の夕方に、小中学生男女10人位で、縄・わら・竹等で作った長さ10メートル位の龍に見立てた綱（写真参照）に、先祖の霊を乗せ、集落の家々に送り届ける。その際にお礼としておひねり（心づけ）をいただく。新盆の家では、ジュース、スイカ、お菓子なども用意している。おひねりは、後に子どもたちで分ける。

この行事は、昭和55年（1980年）以降途絶えていたが平成13年に有志の方々が復活させました。平成27年11月に龍ヶ崎市遺産に認定されています。

★活動スケジュール・プロセス

7月 実施決定し、地区内へ通知回覧

8月 ①盆綱の材料の調達（わら、柳の木、麦わら等）

②盆綱の作成（縄、たいまつ等）

※①と②を当日の1週間前までに準備

8月13日 午後6時開始

8月14日 片付け

★活動の成果・課題

- ・先祖の供養の大切さや薄れつつある地域のつながりを呼び戻せる。
- ・課題としては、少子化による担い手不足。

★苦勞した点・工夫した点

- ・地区に在住の子どもがいない（中学生1人のみ在住）ので、参加者がなかなか集まらない。（地域にゆかりのある子どもに参加してもらっている。）



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

⑧地域課題の解決に向けた勉強会・意見交換会（地域コミュニティ協議会）

事例① 地区防災検討会【松葉小学校区協議会】

★活動内容

- 「安心して住めるまちづくり」の一環として
- 地区としての「震度 6 強の地震への備え」を検討し、私達住民が協力・助け合えばできる「地区防災計画」「地区防災組織」を定める。
 - この協議の過程を通して、住民の理解と協力を得て、防災意識を浸透させる。

★活動スケジュール・プロセス

- 令和元年 9 月～令和 2 年 2 月
自治会から課題を持ち寄り協議し、令和 3 年度の地域会議の議題として「地区防災」を取上げることと決定。
- 令和 2 年
 - 7 月 会の目的・進め方について
 - 9 月 会としての検討案づくり
 - 10 月 検討案を基に検討を要する課題について
 - 12 月 検討を要する課題と来年度の検討の進め方について
- 令和 3 年
 - 5 月 「地区防災の概要(役割分担検討用)」の検討
 - 6 月 「震度 6 強の地震発生時の活動(検討案)」の検討
 - 7 月 「復旧までの生活維持のための活動(検討案)」, 他の検討
 - 10 月 「自主防災会防災計画モデル」の検討
「龍ヶ崎市地域防災計画」について危機管理課より解説, 質疑

※来年度以降の協議継続と地区住民への説明会・訓練を予定。

★活動の成果・課題

- 参加者を役員に限定せず防災の知識・経験のある住民が協議に参加したことで、
 - ・協議の流れが途切れず継続し、具体的になっている。
 - ・自主防災組織ごとに、輪番役員と継続参加している住民間の協力体制ができつつある。
- 防災活動への地区住民の理解と協力を得るために、一部の役員・住民による検討・企画に終わらせず、地区住民が地区防災計画を検討する機会として説明会・訓練の実施を予定。
- 地区の高齢化を考慮し、危機管理課の協力を得て、関係者との協議の機会を持ち、地区避難所・福祉避難所の運営などを具体的にする予定。

★苦労した点・工夫した点

- 参加者を役員に限定せず防災の知識・経験のある住民が協議に参加したこと。
- 一般論にならないよう、地区の特性を踏えた検討案を検討していること。
- 「自分たちが協力・助けあえばできること」を基準に、検討案を検討していること。

⑧地域課題の解決に向けた勉強会・意見交換会（行政）

事例② 活動事例研修会【市コミュニティ推進課】

★内容

「他地区の地域コミュニティ協議会の活動の様子が知りたい」との声があり、活動事例の紹介と情報交換を行っています。また、講師を招いて各協議会の発表した内容に対するコメントや先進地事例を交えてアドバイスをいただきました。

★実績

- 平成 26 年度 事例発表
 - 龍ヶ崎地域コミュニティ協議会
 - 駒柴まちづくり協議会
 - 城ノ内コミュニティ協議会
 - 川原代ふれあい協議会
- 平成 27 年度 事例発表
 - 長山地域コミュニティ協議会
 - 八原まちづくり協議会
 - 南が丘自主防災会
- 平成 28 年度 事例発表
 - 龍ヶ崎西コミュニティ協議会
 - 北文間コミュニティ協議会
 - 大宮ふるさと協議会
- 平成 29 年度 事例発表
 - 長戸コミュニティ協議会
 - 久保台小学校区わくわく協議会



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

⑧地域課題の解決に向けた勉強会・意見交換会（住民自治組織・行政）

事例③ 住民自治組織連絡協議会による講演会

【住民自治組織連絡協議会（事務局：市コミュニティ推進課）】

★内容

住民自治組織の運営のあり方や活動を活性化させる取り組みなどについて、専門家を招き講演会を行っています。

★実績

※住民自治組織（区・自治会・町内会等）の代表者が対象

●令和元年度

「自治会加入率の低下や担い手不足について」



●令和3年度

「コロナ禍における住民自治組織運営と活動について」

（インターネットによる限定録画配信）

（インターネット環境がない方については、市役所附属棟にて視聴会を開催）



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

⑧地域課題の解決に向けた勉強会・意見交換会（行政）

事例④ 市長との意見交換会【市秘書課】

★内容

意見交換会では、開かれた行政経営を図ることを目的とし、市長から最新の市政情報が届けられるほか、各コミュニティ協議会や地域が抱えている課題や現状、市政に対するご意見やご提案などについて意見交換を行い、市長と各コミュニティ協議会との相互理解を深めている。

★実績

●平成 29 年度

- ・北文間コミュニティ協議会 「北文間小学校の跡地利用について」ほか
- ・長山地域コミュニティ協議会
「蛇沼周辺の環境整備（今後の整備計画）について」
「竜ヶ崎ニュータウン北竜台地区への交番の誘致について」ほか

●平成 30 年度

- ・長山地域コミュニティ協議会 「これからの龍ヶ崎市の取り組み」ほか

●令和元年度

- ・馴染まちづくり協議会 「開発計画の現状について」ほか
- ・馴染台地域ひなっこ協議会 「地域コミュニティについて」ほか
- ・長山地域コミュニティ協議会 「災害時要支援者安否確認の取組について」ほか

●それ以前の開催状況

平成 26 年度 4 回（長山地域コミュニティ協議会、北文間コミュニティ協議会、八原まちづくり協議会、馴染まちづくり協議会）

平成 27 年度 2 回（長山地域コミュニティ協議会、八原まちづくり協議会）

平成 28 年度 4 回（北文間コミュニティ協議会、八原まちづくり協議会、長山地域コミュニティ協議会、城ノ内コミュニティ協議会）



◎平成 26 年度
馴染まちづくり協議会



◎平成 27 年度
長山地域コミュニティ協議会



◎平成 28 年度
八原まちづくり協議会

問合せ先：市秘書課 TEL：0297-64-1111

⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例① 高齢者いきがいプロジェクト【長山地域コミュニティ協議会】

★活動内容

- 地域の高齢化や蛇沼公園の荒廃の問題を、地域でどう解決すべきか検討。（自主解決策）
- 地域の将来構想検討委員会の設立で、課題と解決策を協議会で議論。（平成 27 年度）
- 高齢者は地域の重荷？⇒高齢者の居場所があり、技術経験を活かし活躍できる機会の創設。
- その結果、地域のボランティアの募集・高齢者のアンケート調査の実施。（平成 27 年 11 月）
- ◎早起きラジオ体操の会
- ◎住民交流の場「ゆるカフェ」設立
- ◎蛇沼自然再生整備活動
- ◎高齢者の生活支援「はっぴーあしすと」活動
- ◎認知症家族の支援相談窓口（検討中）

★活動スケジュール・プロセス

- 高齢者の意識調査の結果：地域の為に協力できる有能な人材が潜んでいることが判明。
- 平成 27 年から責任者を決めて、健康作り・住民交流・蛇沼の自然整備の活動をスタート。
- ①ラジオ体操会：平成 27 年 9 月 12 日～毎日、長山第三児童公園で実施。（毎年のべ 10,000 人/年）（お正月も休まず実施しています。）
- ②蛇沼再生整備：平成 27 年 8 月～毎月 1 回、20～30 人の参加で、除草・柵整備・清掃。
- ③ゆるカフェ：平成 27 年 8 月～毎月 1 回、コミセンロビーにて、喫茶・手芸・雑談など実施。
- ④はっぴーあしすと：平成 28 年 5 月発足、規約・マニュアル作成・ボランティア募集チラシパンフレット作成。（全戸配布）6 月より生活支援の実施。（年間 100 件以上、売上 10 万円）
- ⑤ひだまり（認知症対応）：令和 2 年 11 月より検討を開始、令和 4 年 1 月～試行開始予定。

★活動の成果・課題

- 高齢者のいきがいプロジェクトの活動内容は多岐にわたる為に、それぞれに成果や課題がある。
 - 高齢者の意識調査から感じられたことは、地域には優秀な人材（人財）が大勢眠っている。その方々をいかに地域活動に参加させられるか？そのまとめ役（リーダー役）の発掘。
 - それぞれの、活動での成果をまとめると、
 - ①それぞれの活動が、開始して既に 7 年間継続できている。（コロナ感染防止で配慮必要だが）
 - ②参加者が元気に毎日ラジオ体操に、30～40 人来て、声掛けをしながら安否確認ができている。
 - ③高齢者の生活支援で、庭の除草要望が一番多いが依頼者から喜ばれて継続して依頼が来る。
 - ④ゆるカフェは、女性陣の交流の場となっている。
 - ⑤ひだまり（認知症対応）に関しては、現在検討中です。成果はこれからです。
 - ⑥長山小学校の「将来の職業の夢」で地域の有識者の職業体験談の授業も実施（平成 26 年～）。
- ※活動写真・アンケート調査結果は、必要であればご覧いただくことが可能です。

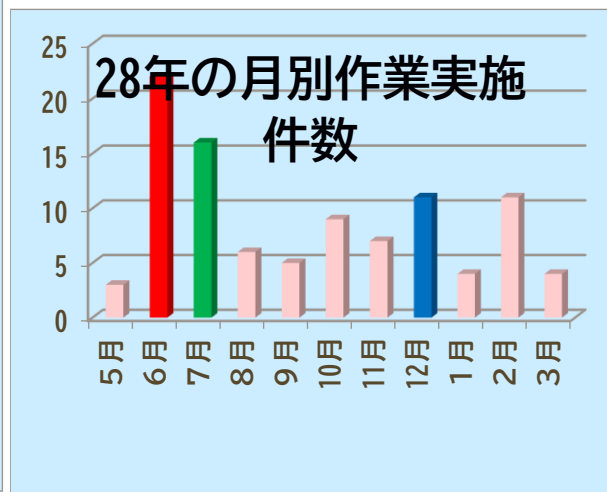
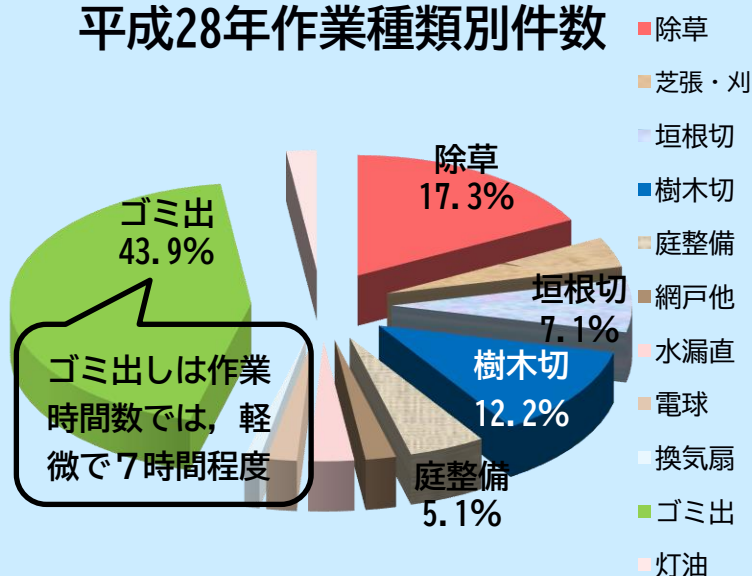
★苦労した点・工夫した点

- 活動を推進するメンバーがテーマごとに同じ人間が重複しているために負担が大きい。
- 活動を開始（平成 27 年）してから、7 年経過して当時 65 歳だった人も 70 歳代に入り、「寄る年波には・・・」で、活動への参加が難しくなっている。若者の加入が少ない。
- 世代交代・後継者の育成が、現在の最大の課題。
- こうした地域の活動の主体は、自治会の関与が不可欠だと考えるが、現状は自治会の役員は毎年交代するため難しい。

「はっぴーあしすと」 2年間（平成28年～29年）の作業活動の分析・実績

- ①登録ボランティアの人数・・・39名（令和3年4月現在の登録人数）
- ②事業（活動）の状況・・・平成28年度4月23日（土）組織設立総会にて承認以降の状況平成28年度の事業状況（作業依頼処理状況）・・・総依頼数：110件
- ③令和2年～3年はコロナ感染防止の影響で、依頼件数は若干減少傾向

平成28年作業種類別件数



Before



After



Before



After

問合せ先：長山コミュニティセンター（長山地域コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-66-7285

⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例② 城ノ内お助け隊【城ノ内コミュニティ協議会】

★活動内容

城ノ内コミュニティ協議会ボランティア「お助け隊」は、地区内で「ちょっと」困っている人をボランティアできる人ができる範囲で手助けし、城ノ内地区内の助け合いを広げるとともに、住民のつながりを深めることを目的としている。この活動の事務局は城ノ内コミュニティセンター内に置かれている。

★活動スケジュール・プロセス

事務局では、「高齢で草刈が大変なので手伝ってもらいたい」あるいは、「病院に行きたいのだが、付き添ってもらえないだろうか」、「障子の張替をお願いしたい」などの要望があれば、

- ①「しろのさと受付用紙」に依頼者氏名、依頼内容、実施日などを記入する。
- ②依頼内容により担当ボランティアを選び、連絡する。
- ③依頼者に決定した担当ボランティア氏名と内容確認の連絡をする。

このように事務局が依頼者とボランティアの連絡調整役を果たしている。

★活動の成果・課題

<成果>

ボランティアを実施することにより、地区内の「生活に支援の必要な方」の利便性の向上につながった。

<課題>

ボランティア活動をできる人は高齢化し、減少している。今後、「お助け隊」を継続していくためには人材の確保が重要になってくる。

★苦勞した点・工夫した点

ボランティアの報酬は、内容に関係なく1時間当たり300円という時間制をとっている。そして支払いはチケット制で、依頼者は事務局で必要枚数(1枚300円分)のチケットを購入し、活動に要した時間分のチケットをボランティアに渡す。ボランティアは、事務局で商品券に交換するという流れになっている。依頼者とボランティアとの間で、現金の授受は行っていない。



問合せ先：城ノ内コミュニティセンター（城ノ内コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-62-3222

⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例③ あおぞらサロンの活動（クリスマスお楽しみ会）【北文間コミュニティ協議会】

※あおぞらサロンとは？→コミュニティセンター図書室を「あおぞらサロン」に改築し、利用者が気軽に集える場所を提供しています。

★活動内容

12月8日(日)北文間コミュニティセンターで一早いクリスマスお楽しみ会を行いました。当日は小学校低学年と幼児が27人、保護者の方17人と多数の参加がありました。

色画用紙で作ったバックにお菓子を詰めて自分で飾りつけたケーキを食べました。また、地域住民の方が面白いアメリカのおはなし“ギーギーなるドア”を聞かせてくれました。サンタクロースも登場して、子どもたちはサンタさんからプレゼントを受け取り、みんなでクリスマスソングを歌ったり、楽しいクリスマス会でした。

★活動スケジュール・プロセス

クリスマスお楽しみ会以外にも、毎月第3日曜日にサロンの日を計画しました。

5月DVD上映会

6月DVD上映会

7月小学生向け夏休みお楽しみ会

午前9時～午後1時

(脳活ゲーム・手作りパズル・輪投げ・グランドゴルフなどチームごとに対戦しました。)

8月DVD上映会

9月DVD上映会

10月コミセン祭り

11月あおぞら寄席(嬉楽亭忠太さんの古典落語を聞きその後簡単な茶話会を行いました。)

茶話会では(煮豆・漬物・ゼリー・おはぎ等)全部手作りで美味しかったと評判でした。

12月クリスマスお楽しみ会

(親子参加・幼児・小学生向け)

★活動の成果・課題

最近は核家族が多くなり、若者の世代がいなくなりがちですが、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども夫婦、孫と三世代の家族が参加して頂き、ほっこりとした大家族の暖かさが感じられました。私も子どもが小さいとき、親子クリスマス会はありましたが、3世代のクリスマス会は今回が初めてでした。コロナ禍になってからは、中止していますが、安全な環境になりましたら、また企画したいです。

★苦労した点・工夫した点

子どもが喜ぶゲームなど企画・準備が大変でした。

ケーキのラッピングも子どもたちが自分でやりました。作る楽しみを味わってもらいました。

全て手作りなので、準備に時間が掛かりました。

◎クリスマスお楽しみ会



◎DVD上映会



問合せ先：北文間コミュニティセンター

(北文間コミュニティ協議会事務局) TEL：0297-64-8249

⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例④ 季節の花の寄せ植え講座【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区にお住まいの方を中心に年に2回花の寄せ植え講座を開催。

土の選び方、根のほぐし方を学び、長持ちする寄せ植えを作ることができる。

★活動スケジュール・プロセス

- ①講師に講座開催の依頼し日程を決める。
(3カ月前)
- ②広報紙に生徒募集記事を掲載する。
(2カ月前)
- ③受付準備。(2カ月前)
- ④コミュニティセンター窓口にて申し込み受付。(1カ月前)
- ⑤講座開催。(当日)

★活動の成果・課題

- ①プロの花屋さんの指導により、自慢の作品を仕上げる事ができた。
- ②手に入りにくい珍しい花を寄せ植えに使うことができた。

★苦勞した点・工夫した点

たくさんの方に参加して頂けるように、コミュニティセンター利用者の皆さんに声掛けをした。



⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ 生バンドで歌おう講座【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区にお住まいの方を中心に、リードギター・ベースギター・キーボードの演奏で歌謡曲や童謡などを自由に歌う。

難しい歌のテクニックを必要せず、合唱することで楽しくストレス解消ができた。

月1回開催(全6回講座)

★活動スケジュール・プロセス

- ①講師に講座開催の依頼し日程を決める。
(3カ月前)
- ②広報紙に受講生募集記事を掲載する。
(2カ月前)
- ③受付準備。(2カ月前)
- ④コミュニティセンター窓口にて申し込み受付。(1カ月前)
- ⑤講座開催。(当日)

★活動の成果・課題

- ①バンド活動をしている方に講師を依頼し、普段味わうことができない生演奏で歌えた。
- ②6回の講座終了後、サークルとして活動をしている。
- ③センターまつりの発表の部で歌を披露した。

★苦労した点・工夫した点

- ①難しい発声やハーモニーを追求するのではなく、自由に歌うことで気軽に参加することができるようにした。
- ②メンバーが自分の友人に声をかけ、仲間を増やしてサークル化につながった。



⑨その他（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ 春の音楽祭【久保台小学校区わくわく協議会】

★活動内容

寒い冬から沈丁花がほのかに香るこの3月に、地区の皆様へ音楽の調べをお届けし、明日への活力を見いだしていく事業です。出演者は地元の音楽団体、久保台コミュニティセンターで活動しているサークルまたは音楽を発信している個人の方などをお呼びして、2時間の演奏会を実施しました。

★活動スケジュール・プロセス

①5月の協議会総会に事業の実施事項を提案し、承認を得る。

②6月、7月、8月で出演者を募集します。

③9月出演者3グループを選定。

（基本は4グループ）

出演者に春の音楽会の趣旨と時間を説明し、日付と出演料を提示、また演じる会場の確認。

④3カ月前に出演者のプロフィールと、発表の曲目を収集。

⑤1カ月前にポスターを作成し、必要なところ（地域のお店屋さん等）に貼ってもらう。当日のプログラムと、進行表を作成。また、会場の看板作成。

⑥2週間前に出演者に進行表を元に最終打ち合わせ。

⑦前日から会場設営し、音響確認と必要に応じてリハーサルを実施。

★活動の成果・課題

①成果：「地区の住民からこの時期、家に閉じこもりがちなので参加できてよかった。」「身近なところでしかも無料で素晴らしい音楽を聴くことができ、楽しい時間をいただきました。」とお声をいただきました。

②課題1：出演者は素人からセミプロまで範囲を広げています。できれば地区の方を選びたいのですが、出演者がなかなか決まらない。

③課題2：出演者のレベルが高すぎるので、素人が出にくい状態である。

★苦勞した点・工夫した点

①音楽の発表会のため、多目的室の音響効果をどのようにするか、マイク、スピーカーの位置、手持ちマイクの隣とのハウリング防止など、専門家が必要な項目を委員の方で対応できた。

②出演者がスムーズに舞台に上げられるように、細かな進行表を作成し控え室からの流れを滞りなく運用できた。



問合せ先：久保台コミュニティセンター（久保台小学校区わくわく協議会事務局）TEL：0297-65-4788

●活動実施に向けての参考情報（別紙）

①地区防災計画

参考資料：「〇〇地区防災計画」（別紙①）

問合せ先：市危機管理課 0297-64-1111

②区・自治会・町内会 活動の手引き

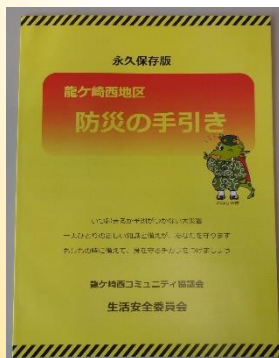
参考資料：「区・自治会・町内会 活動の手引き」（令和3年度版）（別紙②）

問合せ先：市コミュニティ推進課 0297-64-1111

③住民自治組織（区・自治会・町内会等）に関するアンケート調査報告書

参考資料：「住民自治組織（区・自治会・町内会等）に関するアンケート調査報告書」
（別紙③）

問合せ先：市コミュニティ推進課 0297-64-1111



活動事例集（住民自治組織・地域コミュニティ協議会・行政等） 令和3年度発行

【発行者】

龍ヶ崎市 市民生活部

コミュニティ推進課 コミュニティ推進G

TEL：0297-64-1111（内線437・439）